

お茶の水女子大学学报

平成4年11月1日

お茶の水女子大学庶務課

目次

◇ 関係法令	2	○お茶の水女子大学購入物品の機種選定に関する取扱要項の一部改正	8
◇ 学内規則	3	○お茶の水女子大学補償事務主任者の官職指定に関する要項の一部改正	8
○お茶の水女子大学学則の一部改正	3	○お茶の水女子大学慶弔に関する基準の一部改正	8
○お茶の水女子大学事務組織規程の一部改正	3	○お茶の水女子大学事務組織細則の一部改正	9
○お茶の水女子大学館山施設計画委員会規程の一部改正	4	○お茶の水女子大学事務改善研究委員会要項の一部改正	9
○お茶の水女子大学発明委員会規程の一部改正	4	○お茶の水女子大学名誉教授に関する規程の一部改正	9
○お茶の水女子大学廃水管理規程の一部改正	4	○お茶の水女子大学附属高等学校規程等の一部改正	9
○お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程の一部改正	5	○お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程の一部改正	10
○お茶の水女子大学理学部附属臨海実験所運営委員会規程の一部改正	5	◇ 人 事	11
○お茶の水女子大学理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会規程の一部改正	5	◇ 各種委員会委員	22
○お茶の水女子大学理学部極低温実験室運営委員会規程の一部改正	6	◇ 学科主任	31
○お茶の水女子大学生活環境センター運営委員会規程の一部改正	6	◇ 学 事	32
○お茶の水女子大学食堂運営委員会規程の一部改正	6	○平成5年度お茶の水女子大学入学者選抜要項	32
○お茶の水女子大学廃水管理細則の一部改正	7	○平成5年度お茶の水女子大学推薦入学学生募集要項(細目)	42
○お茶の水女子大学文書管理規程の一部改正	7	○平成5年度帰国子女特別選抜募集要項(細目)	50
○お茶の水女子大学教官選考規程の一部改正	7	○平成5年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科募集要項	54
○お茶の水女子大学所属国有財産取扱規程の一部改正	7	◇ 諸 報	62
○お茶の水女子大学生活環境研究センター規則の一部改正	7	○平成4年9月卒業式・学位記授与式について	62
○お茶の水女子大学会計監査要項の一部改正	8	○生活科学部の発足について	62

- 海外渡航 64
- 研修 65
- レクリエーション行事について 66
- 自衛消防隊訓練審査会について 67
- 健康診断 67

関係法令

〔政 令〕

- 国家公務員等共済組合法施行令の一部を改正する政令
(政令296号、9月17日官報)
- 勤労者財産形成促進法施行令の一部を改正する政令
(政令334号、10月14日官報)

〔省 令〕

- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令
(文部省令32号、9月30日官報)
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令
(文部省令33号、9月30日官報)
- 教育公務員特例法施行令第一条の規定に基づき大学院に置かれる研究科の長を定める省令
(文部省令34号、9月30日官報)

〔規 則〕

- 人事院規則9-2(俸給表の適用範囲)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則9-2-17、9月11日官報)
- 人事院規則9-5(給与簿)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則9-5-2、9月11日官報)
- 人事院規則16-0(職員の災害補償)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則16-0-3、9月11日官報)
- 人事院規則16-2(在外公館に勤務する職員、船員である職員等に係る災害補償の特例)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則16-2-4、9月11日官報)

- 人事院規則16-3(災害を受けた職員の福祉施設)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則16-3-16、9月11日官報)
- 人事院規則18-0(職員の国際機構等への派遣)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則18-0-2、9月11日官報)
- 人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改正する人事院規則
(人事院規則17-0-27、9月30日官報)

〔告 示〕

- 大学入学に関し専修学校高等課程について文部大臣が個別に指定した件
(文部省告示100号、10月12日官報)
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその課程を平成四年三月三十一日をもって廃止した件
(文部省告示101号、10月12日官報)
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその課程を平成四年四月一日をもって廃止した件
(文部省告示102号、10月12日官報)
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成四年四月一日から変更した件
(文部省告示103号、10月12日官報)
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成四年二月十八日から変更した件
(文部省告示104号、10月12日官報)
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成四年四月一日から変更した件
(文部省告示105号、10月12日官報)

学内規則

○平成4年お茶の水女子大学規則第14号

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田 次郎

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則

お茶の水女子大学学則(昭和24年5月31日制定)の一部を次のように改正する。

第1章第2節の節名を次のように改める。

第2節 構成及び収容定員等

第2条第1項中「家政学部」を「生活科学部」に改め、同条第2項中「学生定員」を「収容定員等」に改め、同条同項表中に「総定員」を「収容定員」に、

家政学部	児童学科	35人	140人
	食物学科	35人	140人
	被服学科	36人	144人
	家庭経営学科	30人	120人
	家庭科教員養成課程	10人	40人
	計	146人	584人

を

生活科学部	生活環境学科	70人	280人
	人間生活学科	76人	304人
	計	146人	584人

に

改める。

第21条第4号を次のように改める。

四 文部大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

第33条中「国立の学校」を「国立学校」に改める。

附則第2項表中

家政学部	児童学科	5人
	食物学科	5人
	被服学科	6人
	家庭経営学科	5人
	計	21人

を

生活科学部	生活環境学科	10人
	人間生活学科	11人
	計	21人

に改める。

附 則

- この学則は、平成4年10月1日から施行する。
- 家政学部は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成4年9月30日に当該学部 に在学する者が当該学部 に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 改正後の学則第2条第2項に掲げる表の生活科学部の項及び合計の項に定める収容定員は、同項の規定にかかわらず、平成4年度から平成7年度までは、次表のとおりとする。

学部	学 科	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度
生活科学部	生活環境学科	0人	70人	140人	210人
	人間生活学科	0人	76人	152人	228人
	計	0人	146人	292人	438人
合 計		1,456人	1,642人	1,788人	1,934人

○平成4年お茶の水女子大学規則第15号

お茶の水女子大学事務組織規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田 次郎

お茶の水女子大学事務組織規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学事務組織規程(平成2年3月28日制定)の一部を次のように改正する。

第12条第3号中「家政学部事務局」を「生活科学部事務局」に改める。

附 則

- この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 学則の一部を改正する学則(平成4年9月30日規則第14号)附則第2項の規定により家政学部が存続

する間、当該学部の事務は、第10条第1項の規定にかかわらず、生活科学部事務部で行う。

○平成4年お茶の水女子大学規則第16号

お茶の水女子大学館山施設計画委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学館山施設計画委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学館山施設計画委員会規程（昭和44年12月24日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部より選出された委員は、改正後の規程により生活科学部より選出されたものとみなす。
- 3 前項の規定により生活科学部から選出されたものとみなされる委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第3条第1項に規定する「生活科学部より選出された教官 1名」は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部及び家政学部より選出された教官 各1名」と読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第17号

お茶の水女子大学発明委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学発明委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学発明委員会規程（昭和55年3月19日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第3号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出された委員として任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、生活科学部から選出された委員として任命されたものとみなされる委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第3条第1項第3号は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「理学部、生活科学部及び家政学部から選出された教授又は助教授各2名」と読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第18号

お茶の水女子大学廃水管理規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学廃水管理規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学廃水管理規程（平成元年7月12日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1項第3号中「家政学部」を「生活科学部」に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出された委員として任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、生活科学部から選出された委員として任命されたものとみなされる委員の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第4条第1項第3号は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部及び家政学部から選出された教官 各2名」と

読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第19号

お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学学芸員課程委員会規程（昭和51年9月28日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第4号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、生活科学部から選出されたものとみなされる委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第3条第4号は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「理学部、生活科学部及び家政学部から選出された教官各1名」と読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第20号

お茶の水女子大学理学部附属臨海実験所運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学理学部附属臨海実験所運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学理学部附属臨海実験所運営委員会規程（昭和45年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第4号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、生活科学部から選出されたものとみなされる委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第3条第4号中「文教育学部及び生活科学部教官各2名」は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「文教育学部、生活科学部及び家政学部教官各2名」と読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第21号

お茶の水女子大学理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会規程（昭和45年10月28日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第6号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、生活科学部から選出されたものとみなされる委員の任期は、第3条の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第2条第6号は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部及び家政学部から選出された講師以上の専任教官各2名」と読み替えるものとし、生活科学部から選出

された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第22号

お茶の水女子大学理学部極低温実験室運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学理学部極低温実験室運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学理学部極低温実験室運営委員会規程(昭和47年2月9日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第4号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出されたものとみなす。
- 3 前項の規程により、生活科学部から選出されたものとみなされる委員の任期は、第3条の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第2条第4号は、学則の一部を改正する学則(平成4年9月30日規則第14号)附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部及び家政学部から選出された講師以上の専任教官 各1名」と読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第23号

お茶の水女子大学生活環境研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学生活環境研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学生活環境研究センター運営委員会規程(昭和55年4月23日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第5号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

第8条中「家政学部事務部」を「生活科学部事務部」

に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部から選出された委員として任命されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、生活科学部から選出された委員として任命されたものとみなされる委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。
- 4 改正後の第3条第1項第5号は、学則の一部を改正する学則(平成4年9月30日規則第14号)附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部及び家政学部から選出された教授 各2人」と読み替えるものとし、生活科学部から選出された委員が家政学部の委員を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第24号

お茶の水女子大学食堂運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学食堂運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学食堂運営委員会規程(昭和30年12月24日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項表中「食物学科教官」を「食物科学講座の教官」に改める。

第8条中「家政学部事務部」を「生活科学部事務部」に改める。

附 則

- 1 この規程は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により食物学科から選出された委員は、改正後の規程により食物科学講座から選出されたものとみなす。
- 3 前項の規定により、食物科学講座から選出されたものとみなされる委員の任期は、第3条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第25号

お茶の水女子大学廃水管理細則の一部を改正する細則を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学廃水管理細則の一部を改正する規程

お茶の水女子大学廃水管理細則（平成元年7月12日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項別表-1中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この細則は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この細則の施行の日の前日において、改正前の細則により家政学部長から指名された職員は、改正後の細則により生活科学学部長から指名されたものとみなす。
- 3 改正後の第3条第1項別表-1に規定する「生活科学部」学部長が指名する職員3名は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部及び家政学部」各学部長が指名する職員各3名」と読み替えるものとし、生活科学学部長が指名した職員が家政学部の廃液取扱責任者を兼ねるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第26号

お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学文書管理規程（昭和54年4月16日制定）の一部を次のように改正する。

第11条第1項中「茶女大学第 号 学生課に属するもの」を「茶女大務第 号 学務課に属するもの」に、「茶女大家第 号 家政学部」に属するものを「茶女大活第 号 生活科学部に属するもの」に改める。

第26条の表部局長の欄中（お茶の水女子大学事務規定）を「お茶の水女子大学事務組織規程」に改める。

附 則

- 1 この規定は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、家政学部に属する文書の記号及び番号は、なお従前の例による。

○平成4年お茶の水女子大学規則第27号

お茶の水女子大学教官選考規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学教官選考規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学教官選考規程（昭和28年2月11日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1項中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

この規程は、平成4年10月1日から施行する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第28号

お茶の水女子大学大学所属国有財産取扱規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学所属国有財産取扱規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学所属国有財産取扱規程（昭和46年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

第2条第3項別表第1中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

この規程は、平成4年10月1日から施行する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第29号

お茶の水女子大学生生活環境研究センター規則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学生生活環境研究センター規則の一部を改正する規則

お茶の水女子大学生活環境研究センター規則（昭和55年4月23日制定）の一部を次のように改正する。

第12条中「家政学部事務部」を「生活科学部事務部」に改める。

附 則

この規則は、平成4年10月1日から施行する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第30号

お茶の水女子大学会計監査要項の一部を改正する要項を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学会計監査要項の一部を改正する要項

お茶の水女子大学会計監査要項（昭和61年2月25日制定）の一部を次のように改正する。

第2項第1号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この要項は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 第2項第1号に規定する「部局」には、学則を改正する学則〔平成4年9月30日規則第14号〕附則第2項の規定により家政学部が存続する間、当該学部を含むものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第31号

お茶の水女子大学購入物品の機種選定に関する取扱要項の一部を改正する要項を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学購入物品の機種選定に関する取扱要項の一部を改正する要項

お茶の水女子大学購入物品の機種選定に関する取扱要項（昭和59年11月26日制定）の一部を次のように改正する。

第2項第1号中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この要項は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 第2項第1号に規定する「部局」には、学則を改正する学則〔平成4年9月30日規則第14号〕附則第2項の規定により家政学部が存続する間、当該学部を含むものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第32号

お茶の水女子大学補償事務主任者の官職指定に関する要項の一部を改正する要項を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学補償事務主任者の官職指定に関する要項の一部を改正する要項

お茶の水女子大学補償事務主任者の官職指定に関する要項（昭和61年4月11日制定）の一部を次のように改正する。

第1項別表中

「

家政学部事務長	家政学部、生活環境研究センター
---------	-----------------

」

を

「

生活科学部事務長	生活環境研究センター
----------	------------

」

に改める。

附 則

- 1 この要項は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 改正後の第1項別表組織区分の範囲欄中に規定する「生活科学部、生活環境研究センター」は、学則の一部を改正する学則（平成4年9月30日規則第14号）附則第2項の規定により家政学部が存続する間、「生活科学部、家政学部、生活環境研究センター」と読み替えるものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第ノ号

お茶の水女子大学慶弔に関する基準の一部を改正する基準を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学事務局長 統橋延幸

お茶の水女子大学慶弔に関する基準の一部を改正する基準

お茶の水女子大学慶弔に関する基準（昭和63年3月1日制定）の一部を次のように改正する。

第2項中「家政学部」を「生活科学部」に改める。

附 則

- 1 この基準は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 第2項に規定する「部局」には、学則を改正する学則〔平成4年9月30日規則第14号〕附則第2項の規定により家政学部が存続する間、当該学部を含むものとする。

○平成4年お茶の水女子大学規則第/号

お茶の水女子大学事務組織細則の一部を改正する細則を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学事務局長 統橋延幸

お茶の水女子大学事務組織細則の一部を改正する

細則の一部を改正する細則

お茶の水女子大学事務組織細則（平成3年7月26日制定）の一部を次のように改正する。

第11条の見出しを「生活科学部」に改め、同条第1項中「家政学部事務部」を「生活科学部事務部」に改める。

附 則

この細則は、平成4年10月1日から施行する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第/号

お茶の水女子大学事務改善研究委員会要項の一部を改正する要項を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学事務局長 統橋延幸

お茶の水女子大学事務改善研究委員会要項の一部を改正する要項

お茶の水女子大学事務改善研究委員会要項（昭和52年4月13日制定）の一部を次のように改正する。

第10条表を次のように改める。

専門部会名	構 成 員	検討事項	部会長
庶務専門部会	庶務課長、附属図書館事務長、文教育学部事務長、庶務課課長補佐、学務課課長補佐、庶務課専門職員、庶務課各係長、会計課総務係長、理学部総務係長、生活科学部総務係長、附属学校部総務係長	庶務・人事関係事項	構成員の互選による。
会計専門部会	会計課長、施設課長、理学部事務長、会計課課長補佐、会計課各係長、施設課課長補佐、庶務課専門職員、施設課企画係長、学務課専門職員、附属図書館総務係長、文教育学部総務係長、生活科学部総務係長、附属学校部総務係長	会計・施設・図書館関係事項	〃

専門部会名	構 成 員	検討事項	部会長
学生専門部会	学務課長、学生課長、入学主幹、生活科学部事務長、学務課課長補佐、学務課専門職員、学生部各係長、庶務課庶務係長、文教育学部総務係長、理学部総務係長	教務・学生・厚生関係事項	〃
事務電算化専門部会	委員長が委嘱する者	事務電算化関係事項	〃

附 則

この要項は、平成4年10月1日から施行する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第33号

お茶の水女子大学名誉教授に関する規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学名誉教授に関する規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学名誉教授に関する規程（昭和27年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1項第2号の次に次の1号を加える。

三 大学に相当すると認められる教育・研究機関等において、教育・研究に従事した年数のうち、専任講師相当職以上の職としての勤務年数は、その2分の1の年数

附 則

この規程は、平成4年10月1日から施行する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第34号

お茶の水女子大学附属高等学校規程等の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学附属高等学校規程

（お茶の水女子大学附属高等学校規程の一部改正）

第1条 お茶の水女子大学附属高等学校規程（昭和28年2月20日制定）の一部を次のように改正する。

第16条中「日曜日」の次に次の一行を加える。

毎月の第2土曜日

第16条の2中「国立の学校」を「国立学校」に改める。

(お茶の水女子大学附属中学校規程の一部改正)

第2条 お茶の水女子大学附属中学校規程(昭和28年2月20日制定)の一部を次のように改正する。

第15条中「日曜日」の次に次の一行を加える。

毎月の第2土曜日

第16条の2中「国立の学校」を「国立学校」に改める。

(お茶の水女子大学附属小学校規程の一部改正)

第3条 お茶の水女子大学附属小学校規程(昭和28年2月20日制定)の一部を次のように改正する。

第13条中「日曜日」の次に次の一行を加える。

毎月の第2土曜日

第14条の2中「国立の学校」を「国立学校」に改める。

(お茶の水女子大学附属幼稚園規程の一部改正)

第4条 お茶の水女子大学附属幼稚園規程(昭和28年2月20日制定)の一部を次のように改正する。

第12条中「日曜日」の次に次の一行を加える。

毎月の第2土曜日

第12条の2中「国立の学校」を「国立学校」に改める。

附 則

この規程は、平成4年9月30日から施行し、平成4年9月12日から適用する。

○平成4年お茶の水女子大学規則第35号

お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成4年9月30日

お茶の水女子大学長 太田次郎

お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学附属学校教育研究委員会規程(昭和55年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第3号中「家政学部児童学科」を「生活科学部人間生活学科」に改める。

附 則

- 1 この規則は、平成4年10月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日の前日において、改正前の規程により家政学部児童学科から選出された委員は、改正後の規程により生活科学部人間生活学科から選出されたものとみなす。
- 3 前項の規定により生活科学部人間生活学科から選

出されたものとみなされる委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、この規程の施行の日におけるその者の残任期間と同一の期間とする。

人 事

◎常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異 動 前 の 所 属 ・ 官 職
4. 9. 1	村 田 真 弓	講師（文教育学部）	採 用	
”	梅 原 利 宏	助手（理学部）	”	
”	川 田 亜 矢 子	教務職員（理学部）	”	
”	福 田 みゆき	千葉大学国際主幹	配 置 換	学生部学務課長
”	福 島 毅	学生部入学主幹	”	長野工業高等専門学校学生課長
”	佐 藤 茂 夫	学生部学務課長	”	学生部入学主幹
4. 9. 16	三 木 紀 人	附属学校部長事務代理（命）	公 の 名 称	（人文科学研究科教授）
4. 9. 23	三 木 紀 人	附属学校部長事務代理（免）	”	”
4. 9. 30	高 野 佳 征	辞 職 承 認	退 職	家政学部事務長
”	江 原 由 美 子	”	”	助教授（文教育学部）
4. 10. 1	高 瀬 暢 子	文部事務官（庶務課）	採 用	
”	大 野 智 美	文部事務官（会計課）	”	
”	篠 原 千 亜 紀	文部事務官（附属図書館）	”	
”	根 村 直 美	助手（大学院人間文化研究科）	”	
”	菊 池 昭 夫	生活科学部事務長	配 置 換	附属図書館事務長
”	古 賀 智	庶務課研究協力係長	”	附属学校部総務係長
”	田 代 和 敏	生活科学部総務係長	”	家政学部総務係長
”	松 下 雅 彦	生活科学部	”	家政学部
”	溝 井 明 人	”	”	”
”	内 山 典 子	”	”	”
”	中 島 利 誠	教授（生活科学部）	”	教授（家政学部）
”	小 川 昭 二 郎	”	”	”
”	荒 川 信 彦	”	”	”

発令年月日	氏名	異動内容	異動区分	異動前の所属・官職
4.10.1	小林 彰夫	教授（生活科学部）	配置換	教授（家政学部）
"	島田 淳子	"	"	"
"	本間 清一	"	"	"
"	富田 守	"	"	"
"	本田 和子	"	"	"
"	水野 悌一	"	"	"
"	黒田 淑子	"	"	"
"	湯沢 雍彦	"	"	"
"	袖井 孝子	"	"	"
"	板倉 壽郎	"	"	"
"	小池 三枝	"	"	"
"	駒城 素子	助教授（生活科学部）	"	助教授（家政学部）
"	久保田 紀久江	"	"	"
"	畑江 敬子	"	"	"
"	大塚 恵	"	"	"
"	松浦 秀治	"	"	"
"	長谷部 ヤエ	"	"	"
"	牧野 カツコ	"	"	"
"	御船 美智子	"	"	"
"	徳井 淑子	"	"	"
"	無藤 隆	"	"	"
"	犬塚 傳也	"	"	"
"	篠塚 英子	"	"	"
"	柴坂 寿子	講師（生活科学部）	"	講師（家政学部）
"	山本 政人	"	"	"
"	田代 和美	"	"	"

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異 動 前 の 所 属 ・ 官 職
4.10. 1	杉 田 孝 夫	講師 (生活科学部)	配 置 換	講師 (家政学部)
"	山 野 春 子	助手 (生活科学部)	"	助手 (家政学部)
"	寺 沢 なお子	"	"	"
"	黒 田 裕 子	"	"	"
"	梅 谷 知 世	"	"	"
"	高 橋 伸 夫	附属図書館事務長	昇 任	東京大学法学部
"	藤 山 和 子	教授 (文教育学部)	"	助教授 (文教育学部)
"	本 田 郁 子	助教授 (文教育学部)	"	講師 (文教育学部)
"	飯 長 喜一郎	教授 (生活科学部)	"	助教授 (家政学部)
"	鈴 木 恵美子	助教授 (生活科学部)	"	講師 (家政学部)
"	村 田 容 常	"	"	"
"	仲 西 正	"	"	"
"	田 邊 新 一	"	"	"
"	谷 澤 容 子	助手 (生活科学部)	"	家政学部教務職員
"	有 末 伸 子	"	"	"
"	奥 田 都 子	"	"	"
"	徳 丸 吉 彦	評議員辞任	併 任 解 除	(文教育学部教授)
"	徳 丸 吉 彦	文教育学部長 評議員 併任期間 6.9.30まで	併 任	"
"	石 川 宏	評議員 併任期間 5.9.30まで	"	"
"	荒 川 信 彦	生活科学部長 評議員 併任期間 6.9.30まで	"	(生活科学部教授)
"	島 田 淳 子	評議員 併任期間 6.9.30まで	"	"
"	板 倉 壽 郎	"	"	"
"	富 田 守	"	"	"
"	黒 田 淑 子	教授 (家政学部) 併任期間 8.3.31まで	"	"
"	水 野 悌 一	"	"	"
"	本 田 和 子	"	"	"

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異 動 前 の 所 属 ・ 官 職
4.10. 1	飯 長 喜一郎	教授(家政学部) 併任期間8.3.31まで	併 任	(生活科学部教授)
"	荒 川 信 彦	"	"	"
"	小 林 彰 夫	"	"	"
"	本 間 清 一	"	"	"
"	島 田 淳 子	"	"	"
"	小 川 昭二郎	"	"	"
"	中 島 利 誠	"	"	"
"	小 池 三 枝	"	"	"
"	板 倉 壽 郎	"	"	"
"	富 田 守	"	"	"
"	湯 沢 雍 彦	"	"	"
"	袖 井 孝 子	"	"	"
"	無 藤 隆	助教授(家政学部) 併任期間8.3.31まで	"	(生活科学部助教授)
"	大 塚 恵	"	"	"
"	鈴 木 恵美子	"	"	"
"	久保田 紀久江	"	"	"
"	村 田 容 常	"	"	"
"	畑 江 敬 子	"	"	"
"	仲 西 正	"	"	"
"	駒 城 素 子	"	"	"
"	長谷部 ヤエ	"	"	"
"	田 邊 新 一	"	"	"
"	徳 井 淑 子	"	"	"
"	松 浦 秀 治	"	"	"
"	犬 塚 傳 也	"	"	"
"	御 船 美智子	"	"	"

発令年月日	氏名	異動内容	異動区分	異動前の所属・官職
4.10.1	篠塚英子	助教授(家政学部) 併任期間8.3.31まで	併任	(生活科学部助教授)
"	牧野カツコ	"	"	"
"	山本政人	講師(家政学部) 併任期間8.3.31まで	"	(生活科学部講師)
"	杉田孝夫	"	"	"
"	田代和美	"	"	"
"	柴坂寿子	"	"	"
"	古賀智	附属学校部事務室長(免)	公の名称	附属学校部総務係長
"	古賀智	庶務課研究協力室長(命)	"	庶務課研究協力係長
"	海老原葵	附属学校部事務室長(命)	"	庶務課課長補佐

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	異動内容	期間	備考
4.9.1	霧谷貞	事務補佐員(文教育学部)	4.9.1~5.3.31	
4.9.28	本弘京巳	辞職承認		庶務課
4.9.30	山川晴美	"		文教育学部
"	武田純子	"		文教育学部
"	根村直美	"		大学院人間文化研究科
4.10.1	吉田道代	事務補佐員(文教育学部)	4.10.1~5.3.31	
"	橋場浩子	教務補佐員(生活科学部)	"	
"	林陽子	配置換	"	事務補佐員 (生活科学部)
"	若宮弘子	"	"	"
"	浅見キヨノ	"	"	臨時用務員 (生活科学部)
"	ノーリタ・サンセダ	"	"	教務補佐員 (生活科学部)
"	福村典子	"	"	事務補佐員 (生活科学部)
"	早川麻里	"	"	"
"	首藤美香子	"	"	教務補佐員 (生活科学部)
"	内藤知美	"	"	"

発令年月日	氏名	異動内容	異動区分	異動前の所属・官職
4.10. 1	荻原高子	配置換	4.10. 1～5. 3.31	教務補佐員 (生活科学部)
"	大場説子	"	"	"
"	吉川はる奈	"	"	"
"	神原優子	"	"	事務補佐員 (生活科学部)
"	平田玲子	"	"	教務補佐員 (生活科学部)
"	大塚洋子	"	"	"
"	柳瀬サエ子	"	"	"
"	細江容子	"	"	"
"	横村愛	"	"	"
"	内山良重	"	"	"
"	浜田陽子	"	"	"
"	綾部園子	"	"	"
"	香西みどり	"	"	"
"	関口伸子	"	"	"
"	荒木あゆみ	"	"	"
"	霜田くみ子	"	"	"
"	西村美加	"	"	"
"	高橋和子	"	"	"
"	桑嶋照子	"	"	"
"	田中敬子	"	"	"
"	近藤恵	"	"	"
"	中南みどり	"	"	"
"	柘植あづみ	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	4.10. 1～5. 2.28	
"	坪井暢子	"	"	
"	楊桂香	"	"	
"	下迫真理	"	"	

発令年月日	氏名	異動内容	異動区分	異動前の所属・官職
4.10. 1	林 弘美	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	4.10. 1～5. 2.28	
"	川人 順子	"	"	
"	渡部 かなえ	"	"	
"	徳井 千里	"	"	
"	佐藤 志保	"	"	
"	伊藤 綾	"	"	
"	春日 瑞子	"	"	
"	牧 ちづみ	"	"	
"	中川 維子	"	"	
"	石川 総子	"	"	
"	金 美郷	"	"	
"	木村 久美子	"	"	
"	李 貞薫	"	"	
"	田口 理恵	"	"	
"	中田 恭子	"	"	
"	申 銀珠	"	"	
4.10.19	綿引 伴子	教務補佐員(生活科学部)	4.10.19～5. 3.31	

◎非常勤講師

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異動前の所属・官職
4. 8.31	村 田 眞 弓	辞職承認		文教育学部
4. 9. 1	藤 村 達 人	講師（理学部）	4. 9. 1～4. 9.30	三井東圧化学 ライフサイエンス研究所
”	飯 沼 満理子	講師（附属中学校）	4. 9. 1～5. 3.31	
4.10. 1	中 野 照 男	講師（文教育学部）	4.10. 1～5. 3.31	東京国立文化財研究所 室長
”	高 橋 達 史	”	”	東京経済大学助教授
”	村 松 泰 子	”	”	東京学芸大学教授
”	江 原 由美子	”	”	東京都立大学助教授
”	渋谷 博 史	”	”	東京大学助教授
”	安 藤 正 人	”	”	国文学研究資料館助教授
”	土 谷 恵	”	”	
”	春日井 明	”	”	清泉女子大学教授
”	小 川 洋 子	”	”	
”	渡 辺 真紀子	”	”	中央学院大学講師
”	二 瓶 直 子	”	”	
”	伊 藤 喜 栄	”	”	神奈川大学教授
”	田 林 明	”	”	筑波大学助教授
”	吉 田 裕 亮	”	”	統計数理研究所助手
”	正 井 泰 夫	”	”	立正大学教授
”	立 石 友 男	”	”	日本大学教授
”	丸 山 武美子	”	”	
”	築 島 史 恵	”	”	日本語国際センター専 門員
”	リチャード・C・ スミス	”	”	東京外国語大学講師
”	桑 原 敏 明	”	”	筑波大学教授
”	清 水 一 彦	”	”	筑波大学助教授
”	苅 谷 剛 彦	”	”	東京大学講師

発令年月日	氏名	異動内容	異動区分	異動前の所属・官職
4.10. 1	岩本俊郎	講師(文教育学部)	4.10. 1~5. 3.31	立正大学教授
"	浦達也	"	"	江戸川大学助教授
"	松平信久	"	"	立教大学教授
"	小林千枝子	"	"	作新学院大学助教授
"	東清和	"	"	早稲田大学教授
"	竹村夫美子	"	"	埼玉大学助教授
"	中村泉	"	"	帝京大学助教授
"	厚木義松	"	"	
"	石原忠興	"	"	国立音楽大学教授
"	飯田博久	"	"	
"	勝村仁子	"	"	
"	流田直	"	"	附属小学校教諭
"	横山善実	"	"	附属小学校教諭
"	井上泰次	"	"	附属中学校教諭
"	滝口正樹	"	"	附属中学校教諭
"	俣野博	講師(理学部)	"	東京大学教授
"	穴倉光広	"	"	東京工業大学助教授
"	中島匠一	"	"	東京大学助教授
"	大仁田義裕	"	"	東京都立大学助教授
"	安部直人	"	"	東京理科大学教授
"	佐武一郎	"	"	中央大学教授
"	甲元真人	"	"	東京大学助教授
"	野尻伸一	"	"	防衛大学校助手
"	加藤照之	"	"	東京大学助教授
"	池内了	"	"	国立天文台教授
"	林利彦	"	"	東京大学教授

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異 動 区 分	異動前の所属・官職
4.10. 1	山 崎 昶	講師 (理学部)	4.10. 1~5. 3.31	電気通信大学助教授
"	武 田 京三郎	"	"	NTT基礎研究所
"	佐 藤 倫 子	"	"	東芝総合研究所
"	北 川 進	"	"	東京都立大学教授
"	守 隆 夫	"	"	東京大学助教授
"	柳 田 敏 雄	"	"	大阪大学教授
"	塩 川 光一郎	"	"	東京大学教授
"	鍋 島 陽 一	"	"	国立精神・神経センター
"	榊 佳 之	"	"	東京大学教授
"	溝 口 元	"	"	立正大学助教授
"	今 市 涼 子	"	"	玉川大学助教授
"	山 村 雅 一	"	"	東海大学教授
"	上 田 龍	"	"	三菱化成生命科学研究所
"	西 原 清 一	"	"	筑波大学助教授
"	有 山 正 孝	"	"	電気通信大学教授
"	大 矢 雅 則	"	"	東京理科大学教授
"	土 屋 守 正	"	"	東海大学助教授
"	佐 藤 道 幸	"	"	附属中学校教諭
"	中 野 良 顕	講師 (家政学部)	"	筑波大学教授
"	岩 立 京 子	"	"	東京学芸大学助教授
"	降 旗 勝 信	"	"	東京学芸大学教授
"	数 井 みゆき	"	"	
"	今 井 和 子	"	"	
"	鶴 養 美 昭	"	"	日本女子大学講師
"	山 中 英 明	"	"	東京水産大学教授
"	山 崎 眞 狩	"	"	東京大学教授

発令年月日	氏名	異動内容	異動区分	異動前の所属・官職
4.10. 1	沖谷明紘	講師(家政学部)	4.10. 1~5. 3.31	日本獣医畜産大学教授
"	山口静子	"	"	味の素(株)中央研究所
"	石川寛子	"	"	
"	小野寺義幸	"	4.10. 1~4.12.31	
"	鎌田佳伸	"	4.10. 1~5. 3.31	東京農工大学助手
"	栃原裕	"	"	国立公衆衛生院
"	宮坂啓象	"	"	東京工業大学教授
"	坂本満	"	"	国立歴史民俗博物館教授
"	谷田貝麻美子	"	"	東横学園女子短期大学講師
"	山崎稔恵	"	"	
"	井上勝也	"	"	筑波大学助教授
"	伊藤達也	"	"	人口問題研究所
"	岡崎哲二	"	"	東京大学助教授
"	大塚柳太郎	"	"	東京大学助教授
"	尾鍋史彦	"	"	東京大学助教授
"	正田彬	"	"	上智大学教授
"	瓜生武	"	"	
"	多賀幹子	"	"	
"	下村満子	"	"	朝日ジャーナル編集長
"	金森房子	"	"	
"	柳田博明	講師(大学院人間文化研究科)	"	東京大学教授
"	利谷信義	"	"	東京大学教授
"	村松安子	講師(女性文化研究センター)	"	東京女子大学教授
"	小林富久子	"	"	早稲田大学教授
"	宮田愛子	講師(附属中学校)	4.10. 1~4.11.5	
4.10.16	向坊隆	講師(家政学部)	4.10.16~4.10.31	日本原子力産業会議会長

◆各種委員会委員◆

1. () は事務担当課
2. *印は委員長又は議長
3. 任期無記入は官職指定
4. 官職は最新のを掲載

(編集集中の異動について
もできる限り補正した)

評議会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	太 田 次 郎	4. 2.16~7. 2.15
文 教 育 学 部 長	徳 丸 吉 彦	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	4.4. 1~6. 3.31
生 活 科 学 部 長	荒 川 信 彦	4.10. 1~6. 9.30
家 政 学 部 長	荒 川 信 彦	3. 4. 2~5. 4. 1
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 長	森 隆 夫	3. 4. 1~5. 3.31
附 属 図 書 館 長	佐 藤 保	4.11. 1~6.10.31
附 属 学 校 部 長	尾 田 幸 雄	2. 4. 1~5. 3.31
文 教 育 学 部 教 授	春 日 喬	3.10. 1~5. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	石 川 宏	4.10. 1~5. 9.30
文 教 育 学 部 教 授	宮 島 喬	3.10. 1~5. 9.30
理 学 部 教 授	能 村 堆 子	3.10. 1~5. 9.30
理 学 部 教 授	富 田 功	3.10. 1~5. 9.30
理 学 部 教 授	柴 田 文 明	3.10. 1~5. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	板 倉 壽 郎	4.10. 1~6. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	島 田 淳 子	4.10. 1~6. 9.30
生 活 科 学 部 教 授	富 田 守	4.10. 1~6. 9.30
家 政 学 部 教 授	板 倉 壽 郎	3.10. 1~5. 9.30
家 政 学 部 教 授	島 田 淳 子	3.10. 1~5. 9.30
家 政 学 部 教 授	富 田 守	3.10. 1~5. 9.30

(常時評議会に出席できる者)

官 職	氏 名	任 期
事 務 局 長	続 橋 延 幸	
学 生 部 長	藤 原 正 彦	4. 1. 1~5.12.31
一 般 教 育 委 員 会 委 員 長	小 川 剛	3. 4. 1~5. 3.31
教 務 委 員 会 委 員 長	窪 添 慶 文	3. 4. 1~5. 3.31
女 性 文 化 研 究 セ ン タ ー 長	清 水 碩	3. 4. 1~5. 3.31
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 長	五 十 嵐 脩	3. 4. 1~5. 3.31

基本計画委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	太 田 次 郎	
文 教 育 学 部 長	徳 丸 吉 彦	
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
生 活 科 学 部 長	荒 川 信 彦	
家 政 学 部 長	荒 川 信 彦	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 長	森 隆 夫	
附 属 図 書 館 長	佐 藤 保	
附 属 学 校 部 長	尾 田 幸 雄	
学 生 部 長	藤 原 正 彦	
事 務 局 長	続 橋 延 幸	

自己点検・評価検討委員会(庶務課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	太 田 次 郎	
文 教 育 学 部 長	徳 丸 吉 彦	
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
生 活 科 学 部 長	荒 川 信 彦	
家 政 学 部 長	荒 川 信 彦	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 長	森 隆 夫	
文 教 育 学 部 教 授	山 本 秀 行	

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 教 授	富 田 功	
生活科学部 教 授	中 島 利 誠	
大学院人間文 化研究科教授	小 川 剛	
女性文化研究 センター長	清 水 碩	
生活環境研究 センター長	五十嵐 脩	
附 属 図 書 館 長	佐 藤 保	
附 属 学 校 部 長	尾 田 幸 雄	
学 生 部 長	藤 原 正 彦	
事 務 局 長	続 橋 延 幸	

将来構想検討委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	平 野 由起子	4.10. 1~6. 9.30
文教育学部 助 教 授	栗 原 尚 子	
理 学 部 教 授	渡 辺 ヒサ子	
理 学 部 教 授	石 和 貞 夫	
生活科学部 教 授	島 田 淳 子	
生活科学部 助 教 授	無 藤 隆	
大学院人間文 化研究科教授	宮 島 喬	
女性文化研究 センター教授	原 ひろ子	
生活環境研究 センター教授	倉 田 忠 男	

発明委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
文 教 育 学 部 部 長	徳 丸 吉 彦	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
生活科学部長 家政学部長	荒 川 信 彦	
文教育学部 助 教 授	内 藤 俊 史	

理 学 部 教 授	細 矢 治 夫	4.10. 1~6. 9.30
理 学 部 教 授	内 嶋 善 兵 衛	
生活科学部 教 授	小 川 昭 二 郎	
生活環境研究 センター教授	倉 田 忠 男	

組換えDNA実験安全委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任
研 究 者 理 学 部 教 授	清 水 碩	3.12.16 ~ 5.12.15
研 究 者 生活環境研究 センター教授	大 橋 昌 子	
自然科学 理 学 部 教 授	松 本 勲 武	3.12.16 ~ 5.12.15
自然科学 生活科学部 助 教 授	村 田 容 常	
人文科学 文教育学部 教 授	尾 田 幸 雄	3.12.16 ~ 5.12.15
社会科学 生活科学部 講 師	山 本 政 人	
官職指定	保健管理セ ンター所長	奥 野 剛
官職指定	理 学 部 事 務 長	薄 葉 章
官職指定	生活科学部 事 務 長	菊 池 昭 夫
安 全 主 任 者	理 学 部 教 授	能 村 堆 子

事務改善研究委員会（庶務課）

官 職	氏 名	任 期
事 務 局 長	続 橋 延 幸	
庶 務 課 長	高 木 義 紀	
会 計 課 長	小 田 野 弘 和	
施 設 課 長	南 芳 美	
学 務 課 長	佐 藤 茂 夫	
学 生 課 長	佐 藤 克 彦	
入 学 主 幹	福 島 毅	
庶 務 課 課 長 補 佐	海 老 原 葵	

会計課長補佐	西村光範
施設課長補佐	太田原武
学務課長補佐	中野公敏
文教育学部事務長	細井隆一
理学部事務長	薄葉章
生活科学部事務長	菊池昭夫
附属図書館事務長	高橋伸夫

レクリエーション運営委員会（庶務課）

官職	氏名	任期
事務局長	続橋延幸	
庶務課長	高木義紀	
会計課長	小田野弘和	
施設課長	南芳美	
学務課長	佐藤茂夫	
学生課長	佐藤克彦	
入学主幹	福島毅	
文教育学部事務長	細井隆一	
理学部事務長	薄葉章	
生活科学部事務長	菊池昭夫	
附属図書館事務長	高橋伸夫	
庶務課長補佐 附属学校部事務室長	海老原葵	
会計課長補佐	西村光範	
施設課長補佐	太田原武	
学務課長補佐	中野公敏	
研究協力室長	古賀智	

女性文化研究センター 運営委員会（庶務課）

官職	氏名	任期
女性文化研究センター長	清水碩	3. 4. 1~5. 3.31
文教育学部長	徳丸吉彦	
理学部長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森隆夫	
女性文化研究センター教授	原ひろ子	
女性文化研究センター助教授	館かおる	
文教育学部教授	田中真砂子	4. 4.23~6. 4.22
理学部教授	澤島侑子	4. 4.23~6. 4.22
生活科学部教授	袖井孝子	4. 4.23~6. 4.22
事務局長	続橋延幸	

生活環境研究センター運営委員会（庶務課）

官職	氏名	任期
生活環境研究センター長	五十嵐脩	3. 4. 1~5. 3.31
文教育学部長	徳丸吉彦	
理学部長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
生活環境研究センター教授	大橋昌子	
生活環境研究センター教授	倉田忠男	
生活環境研究センター助教授	冨永典子	
文教育学部教授	井内昇	3. 4. 1~5. 3.31
理学部教授	松本勲武	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部教授	小川昭二郎	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部教授	本間清一	4. 4. 1~6. 3.31
事務局長	続橋延幸	

予算委員会 (会計課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部長	徳丸吉彦	
理学部長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森隆夫	
文教育学部教授	内藤博夫	
文教育学部教授	加賀秀夫	4.10. 1~6. 9.30
理学部教授	能村堆子	3. 4. 1~5. 3.31
理学部教授	富永靖徳	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部教授	小林彰夫	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部教授	水野梯一	3. 4. 1~6. 3.31
大学院人間文化研究科教授	井内昇	3. 4. 1~5. 3.31
附属図書館長	佐藤保	
女性文化研究センター長	清水碩	
生活環境研究センター長	五十嵐脩	
事務局長	統橋延幸	
生活部長	藤原正彦	
会計課長	小田野弘和	

防災委員会 (会計課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	太田次郎	
文教育学部長	徳丸吉彦	
理学部長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森隆夫	
附属図書館長	佐藤保	

附属学校部長	尾田幸雄	
学生部長	藤原正彦	
保健管理センター所長	奥野剛	
事務局長	統橋延幸	
庶務課長	高木義紀	
会計課長	小田野弘和	
施設課長	南芳美	
学務課長	佐藤茂夫	
学生課長	佐藤克彦	

購入物品機種選定委員会 (会計課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部講師	杉谷隆	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部助教授	内藤俊史	
理学部教授	田中翠	
理学部教授	富田功	
生活環境研究センター教授	倉田忠男	
生活科学部教授	小川昭二郎	

施設計画委員会 (施設課)

官 職	氏 名	任 期
学 長	太田次郎	
文教育学部長	徳丸吉彦	
理学部長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森隆夫	
文教育学部教授	大口勇次郎	
文教育学部教授	宮原修	3.10. 1~5. 9.30

理学部 教授	細 矢 治 夫	4. 4. 1~6. 3.31
理学部 教授	柴 田 文 明	3. 4. 1~5. 3.31
生活科学部 教授	湯 沢 擁 彦	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教授	板 倉 壽 郎	4. 4. 1~6. 3.31
大学院人間文 化研究科教授	井 内 昇	4. 4. 1~5. 3.31
附 属 図 書 館 長	佐 藤 保	
附 属 学 校 部 長	尾 田 幸 雄	
女 性 文 化 研 究 セ ン タ ー 長	清 水 碩	
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 長	五 十 嵐 脩	
事 務 局 長	統 橋 延 幸	
学 生 部 長	藤 原 正 彦	
一 般 教 育 委 員 会 委 員 長	小 川 剛	

館山施設計画委員会（施設課）

官 職	氏 名	任 期
理学部 部長	伊 藤 厚 子	
文教育学部 助 教 授	本 田 郁 子	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助 教 授	杉 山 進	3.10. 1~5. 9.30
理学部 教授	松 本 勲 武	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教授	本 間 清 一	4.10. 1~6. 9.30
理学部附属 臨海実験所助教授	根 本 心 一	
附属高等学校 教 頭	早 崎 捷 治	
附属中学校 教 頭	大 岩 順 子	
附属小学校 教 頭	古 市 憲 一	
附属幼稚園 教 頭	樹 田 正 子	
学 生 部 長	藤 原 正 彦	
事 務 局 長	統 橋 延 幸	

会 計 課 長	小 田 野 弘 和	
施 設 課 長	南 芳 美	

廃水管理委員会（施設課）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 講 師	杉 谷 隆	
理学部 助 教 授	林 正 男	
理学部 教 授	富 永 靖 徳	
理学部 助 教 授	藤 枝 修 子	
生活科学部 助 教 授	久 保 田 紀 久 枝	3.10. 1~5. 9.30
生活科学部 講 師	仲 西 正	
生活環境研究 センター教授	五 十 嵐 脩	
附属高等学校 教 諭	石 井 朋 子	
附属中学校 教 諭	佐 々 木 和 枝	
会 計 課 長	小 田 野 弘 和	
施 設 課 長	南 芳 美	

教務委員会（学務課）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	窪 添 慶 文	4. 4. 1~5. 3.31
文教育学部 教 授	土 屋 賢 二	4. 4. 1~6. 3.31
理学部 教 授	富 永 靖 徳	3. 4. 1~5. 3.31
理学部 助 教 授	塚 田 和 美	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	小 池 三 枝	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教 授	島 田 淳 子	3. 4. 1~5. 3.31
一 般 教 育 委 員 会 委 員 長	小 川 剛	
学 生 部 長	藤 原 正 彦	

一般教育委員会(学務課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	小 川 剛	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助 教 授	今 西 典 子	3. 4. 1~5. 3.31
理 学 部 教 授	真 島 秀 行	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	今 野 美 智 子	3. 4. 1~5. 3.31
生活科学部 助 教 授	無 藤 隆	3. 9.10~5. 3.31
生活科学部 助 教 授	長谷部 ヤ エ	4. 4. 1~6. 3.31
学生部長	藤 原 正 彦	

公開講座委員会(学務課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	辻 佐保子	4. 1.20~6. 3.19
文教育学部 教 授	平 野 由紀子	4.10. 1~6. 1.19
文教育学部 教 授	海老根 静 枝	4.10. 1~6. 1.19
理 学 部 教 授	太 田 隆 夫	4. 1.20~6. 1.19
理 学 部 教 授	真 島 秀 行	4. 1.20~6. 1.19
理 学 部 助 教 授	今 野 美 智 子	4. 1.20~6. 1.19
生活科学部 教 授	黒 田 淑 子	4. 1.20~6. 1.19
生活科学部 助 教 授	久保田 紀久枝	4. 1.20~6. 1.19
生活科学部 教 授	徳 井 淑 子	4. 1.20~6. 1.19
学生部長	藤 原 正 彦	

外国人留学生委員会(学務課)

官 職	氏 名	任 期
人文・日言 教 授	水 谷 信 子	4. 1.20~6. 3.19
文教育学部 助 教 授	平 田 悦 郎	
文教育学部 講 師	本 郷 逕 子	
文教育学部 助 教 授	宮 尾 正 樹	3. 4. 1~5. 3.31

理 学 部 助 教 授	林 正 男	4. 4. 1~5. 3.31
生活科学部 助 教 授	徳 井 淑 子	4. 4. 1~5. 3.31
生活科学部 講 師	柴 坂 寿 子	4. 4. 1~6. 3.31
人間文化研 究 科 教 授	藤 山 和 子	4. 5. 1~5. 3.31
学生部長	藤 原 正 彦	

学生委員会・学寮委員会・学生会館運営委員会
(学生課)

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 助 教 授	耳 塚 寛 明	3. 4. 1~5. 3.31
文教育学部 助 教 授	中 村 俊 直	3. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	竹 尾 富 貴 子	4. 4. 1~6. 3.31
理 学 部 助 教 授	益 田 祐 一	3. 4. 1~5. 3.31
生活科学部 講 師	田 代 和 美	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 講 師	仲 西 正	3. 4. 1~5. 3.31
学生部長	藤 原 正 彦	

共用体育施設等管理運営委員会(学生課)

官 職	氏 名	任 期
学生部長	藤 原 正 彦	
附属学校 部 長	尾 田 幸 雄	
文教育学部 助 教 授	杉 山 進	4. 6.16~6. 6.15
会計課長	小 田 野 弘 和	
学生課長	佐 藤 克 彦	

食堂運営委員会(学生課)

官 職	氏 名	任 期
学生部長	藤 原 正 彦	
生活科学部 教 授	島 田 淳 子	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 助 教 授	大 塚 恵	4. 7.21~6. 3.31
附属高等学 校 教 諭	小 竹 千 香 子	4. 4. 1~5. 3.31

事務局長	統橋延幸	
会計課長	小田野弘和	
学生課長	佐藤克彦	
生活科学部 総務係長	田代和敏	4. 4. 1~5. 3.31
学生自治会 委員長	畦山恵理子	
小石川寮 委員長	前田千世	
大山寮寮長	村山佳世	

保健管理センター運営委員会（学生課）

官 職	氏 名	任 期
保健管理セ ンター所長	奥野剛	4.10. 1~6. 9.30
文教育学部 教授	野島秀勝	
文教育学部 教授	佐藤良子	4.10. 1~6. 9.30
理学部 助教授	前田ミチエ	3. 9.16~5. 9.15
理学部 助教授	渡辺洋子	3. 9.16~5. 9.15
生活科学部 教授	飯長喜一郎	4. 9.16~5. 9.15
生活科学部 教授	水野梯一	4. 9.16~6. 9.15
附属中学校 教諭	山梨八重子	4. 4. 1~6. 3.31
附属幼稚園 教諭	岩上節子	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助教授	杉山進	
理学部 教授	清水碩	
生活科学部 教授	富田守	
学生部長	藤原正彦	
事務局長	統橋延幸	

入学試験委員会（入学主幹室）

官 職	氏 名	任 期
学 長	太田次郎	
文教育学部 部長	徳丸吉彦	
理学部長	伊藤厚子	
生活科学部長 家政学部長	荒川信彦	4. 4. 1~5. 3.31
文教育学部 助教授	鷹野光行	
文教育学部 助教授	安田次郎	4. 4. 1~6. 3.31
理学部 教授	真島秀行	3. 4. 1~5. 3.31
理学部 教授	松本勲武	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 助教授	松浦秀治	3. 4. 1~5. 3.31
生活科学部 助教授	久保田紀久枝	4. 4. 1~6. 3.31
学生部長	藤原正彦	
事務局長	統橋延幸	
保健管理セ ンター所長	奥野剛	
情報処理セ ンター長	細矢治夫	

入学者選抜方法研究委員会（入学主幹室）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 助教授	耳塚寛明	3. 4. 1~5. 3.31
文教育学部 助教授	杉谷隆	4. 4. 1~6. 3.31
理学部 教授	松本勲武	3. 4. 1~5. 3.31
理学部 教授	太田隆夫	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 助教授	仲西正	4. 4. 2~6. 3.31
生活科学部 助教授	村田容常	4. 4. 1~6. 3.31
学生部長	藤原正彦	
教務委員長	窪添慶文	
一般教育委 員会委員長	小川剛	

学芸員課程委員会（文教育学部事務部）

官 職	氏 名	任 期
文教育学部 教 授	宮 原 修	
文教育学部 教 授	小 川 剛	
文教育学部 助 教 授	鷹 野 光 行	
文教育学部 助 教 授	秋 山 光 文	4.10. 1～6. 9.30
文教育学部 助 教 授	安 田 次 郎	4.10. 1～6. 9.30
文教育学部 助 教 授	栗 原 尚 子	4.10. 1～6. 9.30
文教育学部 助 教 授	平 野 由 紀 子	4.10. 1～6. 9.30
理 学 部 助 教 授	山 下 貴 司	4.10. 1～6. 9.30
生活科学部 助 教 授	徳 井 淑 子	4.10. 1～6. 9.30

理学部附属臨海実験所運営委員会（理学部事務部）

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
理学部附属 臨海実験所長	根 本 心 一	
理 学 部 教 授	富 永 靖 徳	4. 4. 1～6. 3.31
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	4. 4. 1～6. 3.31
理 学 部 助 教 授	山 下 貴 司	4. 4. 1～6. 3.31
理 学 部 助 教 授	渡 辺 洋 子	4. 4. 1～6. 3.31
文教育学部 教 授	田 宮 兵 衛	4. 4. 1～6. 3.31
文教育学部 助 教 授	栗 原 尚 子	4. 4. 1～6. 3.31
生活科学部 教 授	本 間 清 一	4. 4. 1～6. 3.31
生活環境研究 センター教授	大 橋 昌 子	4. 4. 1～6. 3.31
会 計 課 長	小 田 野 弘 和	
施 設 課 長	南 芳 美	

理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会

(理学部事務部)

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
RI実験室長	富 田 功	
放射線取扱 主 任 者	所 哲 司	
文教育学部 助 教 授	杉 谷 隆	4. 4. 1～6. 3.31
理 学 部 教 授	田 中 翠	4.10. 1～6. 9.30
理 学 部 教 授	清 水 碩	4.10. 1～6. 9.30
理 学 部 教 授	松 本 勲 武	4.10. 1～6. 9.30
生活科学部 助 教 授	大 塚 恵	3.10. 1～5. 9.30
生活環境研究 センター教授	富 永 典 子	3.10. 1～5. 9.30

理学部極低温実験室運営委員会（理学部事務部）

官 職	氏 名	任 期
理 学 部 長	伊 藤 厚 子	
極低温実験 室 長	田 中 翠	
理 学 部 助 教 授	浜 谷 望	4. 4. 1～6. 3.31
理 学 部 助 教 授	永 野 肇	4. 4. 1～6. 3.31
理 学 部 助 教 授	芦 原 担	4. 4. 1～6. 3.31
生活環境研究 センター助教授	富 永 典 子	4. 4. 1～6. 3.31
保安監督者	所 哲 司	

情報処理センター運営委員会（理学部事務部）

官 職	氏 名	任 期
センター長	細 矢 治 夫	
センター主任 理学部助教授	藤 代 一 成	4.10. 1～6. 9.30
文教育学部 助 教 授	千 歳 寿 一	4.10. 1～6. 9.30
文教育学部 助 教 授	内 藤 俊 史	4.10. 1～6. 9.30

理学部 教授	真島秀行	4.10. 1~6. 9.30
理学部 教授	平野恒夫	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 助教授	村田容常	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 助教授	仲西正	4.10. 1~6. 9.30
大学院人間文化 研究科教授	富永靖徳	4.10. 1~6. 9.30
女性文化研究 センター助教授	館かおる	4.10. 1~6. 9.30
生活環境研究 センター助教授	富永典子	4.10. 1~6. 9.30
附属 図書館長	佐藤保	
学生部長	藤原正彦	
一般教育委 員会委員長	小川剛	

附属図書館運営委員会（附属図書館事務部）

官職	氏名	任期
附属 図書館長	佐藤保	4.11. 1~6.10.31
文教育学部 教授	平野由紀子	4. 4. 1~6. 3.31
文教育学部 助教授	今西典子	4.10. 1~6. 9.30
理学部 助教授	今野美智子	4. 4. 1~6. 3.31
理学部 講師	亀井理	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教授	小池三枝	4.10. 1~6. 9.30
生活科学部 講師	杉田孝夫	3. 4. 1~5. 3.31
生活環境研究 センター教授	大橋昌子	4. 4. 1~6. 3.31
女性文化研究 センター教授	原ひろ子	4. 4. 1~6. 3.31
一般教育委 員会委員長	小川剛	

附属学校委員会（附属学校部事務室）

官職	氏名	任期
附属学校 部 長	尾田幸雄	
文教育学部 教授	小川剛	3. 4. 1~5. 3.31
理学部 教授	田中翠	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 教授	湯沢擁彦	3. 4. 1~5. 3.31
事務局長	続橋延幸	
附属 小学校長	遠山益	
附属 中学校長	上野浩道	
附属高等学 校 校長	前田侯子	
附属 幼稚園長	三木紀人	
附属小学校 教頭	古市憲一	
附属中学校 教頭	大岩順子	
附属高等学 校 教頭	早崎捷次	
附属幼稚園 教頭	榊田正子	

附属学校教育研究委員会（附属学校部事務室）

官職	氏名	任期
附属学校 部 長	尾田幸雄	
文教育学部 教授	春日喬	4. 4. 1~6. 3.31
理学部 教授	小山敏子	4. 4. 1~6. 3.31
生活科学部 助教授	牧野カツコ	4. 4. 1~6. 3.31
教育学科 教授	宮原修	3. 4. 1~5. 3.31
人間生活学 科 教授	黒田淑子	4. 4. 1~ 6. 3.31
附属 小学校長	遠山益	
附属 中学校長	上野浩道	
附属 高等学校長	前田侯子	
附属 幼稚園長	三木紀人	

附属小学校 教 頭	古 市 憲 一	
附属中学校 教 頭	大 岩 順 子	
附属高等学 校 教 頭	早 崎 捷 次	
附属幼稚園 教 頭	樹 田 正 子	
附属小学校 教 諭	遠 藤 修 一 郎	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属小学校 教 諭	和 田 淳	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属中学校 教 諭	花 田 修 一	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属中学校 教 諭	田 中 美 也 子	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属高等学 校 教 諭	大 戸 吉 和	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属高等学 校 教 諭	室 岡 和 彦	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属幼稚園 教 諭	豊 田 一 秀	4. 4. 1～ 6. 3. 31
附属幼稚園 教 諭	田 中 三 保 子	4. 4. 1～ 6. 3. 31

○ 学科主任の交替

学 部	学 科 等	職 名	氏 名	備 考
文教育学部	哲 学 科	教 授	土 屋 賢 二	平成4年 9月 5日から
文教育学部	哲 学 科	教 授	辻 佐 和 子	平成4年 10月 7日から
文教育学部	史 学 科	助 教 授	安 田 次 郎	平成4年 9月16日から
文教育学部	史 学 科	教 授	窪 添 慶 文	平成4年 10月 5日から

学 事

○ お茶の水女子大学入学者選抜要項

—平成5年度—

1. 学部・学科別募集人員

〔文教育学部〕 連続方式（A日程）

学 科		入学定員	募集人員	備 考
哲 学 科		24	24	
史 学 科		23	23	
地 理 学 科		22	17	別募集 推薦入学 5名
国 文 学 科		35	27	別募集 推薦入学 8名
外 国 文学科	中国文学・中国語学	12	8	別募集 推薦入学 4名
	英文学・英語学	37	37	
	仏文学・仏語学	8	8	
教 育 学科	教 育 学	23	23	
	心 理 学	17	17	
舞 踊 教 育学科	舞 踊 教 育 学	18	18	
	音 楽 教 育 学	13	13	
計		232	215	

〔理 学 部〕 連続方式（A日程）

学 科	入学定員	募集人員	備 考
数 学 科	25	18	別募集 推薦入学 6名 別募集 帰国子女特別選抜若干名
物 理 学 科	25	20	別募集 推薦入学 5名
化 学 科	25	20	別募集 推薦入学 5名
生 物 学 科	27	20	別募集 推薦入学 7名
情 報 科 学 科	40	32	別募集 推薦入学 8名
計	142	110	

〔生活科学部〕 分離・分割方式（前期日程・後期日程）

学 科	入学定員	募 集 人 員		備 考
		前期日程	後期日程	
生 活 環 境 学 科	70	46	12	別募集 推薦入学12名
人 間 生 活 学 科	76	50	12	別募集 推薦入学14名
計	146	96	24	

2. 出題資格

下記のいずれかに該当する女子で、かつ、平成5年度大学入試センター試験を受験した者

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成5年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の過程による12年の学校教育を修了した者及び平成5年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第69条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成5年3月31日までにこれに該当する見込みの者

3. 出願期間

平成5年1月25日(月)から平成5年2月2日(火)まで

4. 出願方法

- (1) 本学各学部別の出願について

〔文教育学部〕

文教育学部に出願する者は、同一学部内に限り第2志望まで認める。ただし、本学の個別学力検査で「数学」を選択した者は「地理学科」、「教育学科(心理学)」、「舞踊教育学科」の範囲内に限る。

〔理学部〕

理学部に出願する者は志望学科は1つの学科に限る。

〔生活科学部〕

生活科学部に出願する者は、「前期日程」又は「後期日程」のいずれであっても志望する学科は1つの学科にかぎる。なお、「前期日程」と「後期日程」で志望する学科が異なっても差し支えない。

- (2) 本学出願者の他の国公立大学への出願について

学部名	選抜方法	他に出題できる国公立大学・学部
文教育学部 理学部	連続方式 〔A日程〕	「B日程グループ」又は本学を含む「後期日程グループ」に属する大学・学部に出願できる。
生活科学部	分離・分割方式 〔前期日程〕	「B日程グループ」又は本学を含む「後期日程グループ」に属する大学・学部に出願できる。
	分離・分割方式 〔後期日程〕	本学を含む「A日程グループ」又は「前期日程グループ」に属する大学・学部に出願できる。

注)「B日程グループ」には、私立産業医科大学を含む。

5. 入学者選抜方法

- (1) 入学者の選抜

【文教育学部・理学部・生活科学部(前期日程)】

入学者の選抜は、大学入試センター試験成績、本学の個別学力検査成績(文教育学部舞踊教育学科は実技検査を含む。)、調査書並びに健康診断書を総合して合格者を判定する。

【生活科学部(後期日程)】

入学者の選抜は、大学入試センター試験成績、調査書並びに健康診断書を総合して合格者を判定する。(本学の個別学力検査は実施しない。)

- (2) 2段階選抜

【文教育学部・理学部・生活科学部(前期日程)】

入学志願者が募集人員を大幅に上回り、本学の個別学力検査等を適切に実施することが困難な場合は、第1段階選抜を行い、その合格者に対して本学の個別学力検査(文教育学部舞踊教育学科は実技検査を含む。)を行う。

(選抜方法)

本学各学部の定める「大学入試センター試験で受験を要する教科等」の各教科・科目の得点(本学が定める配点)を合計したものを受験者成績とし、得点順に各学部・学科等の募集人員の約6倍を、第1段階選抜合格者とする。

【生活科学部(後期日程)】

第1段階選抜は、実施しない。

6. 大学入試センター試験で受験を要する教科等

学部等名		受験を要する 教科名等	受験を要する教科名	受験を 要する 教科数
文教育学部			国語 社会（倫、日、世、地理、現社*から1） 数学（「数Ⅰ」と「数Ⅱ、簿※、工※から1」） 理科（物、化、生、地、理Ⅰ*から1） 外国語（英、独、仏から1）	5教科
理学部			国語 数学（「数Ⅰ」と「数Ⅱ、簿※、工※から1」） 理科（物、化、生、地、理Ⅰ*から1） 外国語（英、独、仏から1）	4教科
生活科学部	生活環境学科	前期日程	国語 社会（倫、日、世、地理、現社*から1） 数学（「数Ⅰ」と「数Ⅱ、簿※、工※から1」） 理科（物、化、生、地、理Ⅰ*から1） 外国語（英、独、仏から1）	5教科
		後期日程	国語 社会（倫、日、世、地理、現社*から1） 数学（「数Ⅰ」と「数Ⅱ、簿※、工※から1」） 理科（物、化、生、地、理Ⅰ*から1） 外国語（英、独、仏から1）	5教科
	人間生活学科	前期日程	国語 社会（倫、日、世、地理、現社*から1） 数学（「数Ⅰ」と「数Ⅱ、簿※、工※から1」） 理科（物、化、生、地、理Ⅰ*から1） 外国語（英、独、仏から1）	5教科
		後期日程	国語 数学（「数Ⅰ」と「数Ⅱ、簿※、工※から1」） 外国語（英、独、仏から1）	3教科

*「現代社会」及び「理科Ⅰ」は、高等学校の「普通科」及び「理数科」の卒業（見込み）者は、解答できない。

※「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」及び「工業数理」は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者のみ解答できる。

7. 本学の入学試験

(1) 個別学力検査等試験期日

文教育学部 平成5年2月25日(木)、舞踊教育学科実技検査は2月26日(金)

理学部 平成5年2月25日(木)

生活科学部

〔前期日程〕 平成5年2月25日(木)

〔後期日程〕 個別学力検査は実施しない

(2) 個別学力検査教科・科目

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目		備 考
※ 文教育学部	哲 学 科 史 学 科 地 理 学 科 国 文 学 科 外 国 文 学 科 教育学科 (教育学) 教育学科 (心理学) 舞 踊 教 育 学 科	A	国語 (国語Ⅰ・Ⅱ、古典) 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、 フランス語から1か国語選択)	舞踊教育学科 (舞踊教育学、音楽教育学) の志望者にはほかに実技検査を行う
	地 理 学 科 教育学科 (心理学) 舞 踊 教 育 学 科	B	数学 (数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、 確率・統計*) 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB、ドイツ語、 フランス語から1か国語選択)	
理学部	数 学 科		数学 (数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・ 積分、確率・統計*) 理科 (物理、化学、生物から1科目選択)	
	物 理 学 科		数学 (数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・ 積分、確率・統計*) 理科 (物理)	
	化 学 科		数学 (数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・ 統計*) 理科 (「化学」と「物理、生物から1科目 選択」)	
	生 物 学 科		数学 (数Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、確率・ 統計*) 理科 (「生物」と「物理、化学から1科目 選択」)	

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目		備 考	
理学部	情 報 科 学 科	I	数学 (数 I、代数・幾何、基礎解析、 微分・積分、確率・統計*)	科目は共通 であるが、 I、IIの選 択によって 配点が異な る。	
		II	理科 (物理、化学、生物から 1 科目選 択)		
☆ 生 活 科学部	生活環境学科	前期日程	数学 (数 I、代数・幾何、基礎解析、 確率・統計*) 外国語 (英語 I・II・II B、ドイツ語、 フランス語から 1 か国語選択)		
		後期日程	課さない。		
	人間生活学科	前期日程	A		国語 (国語 I・II、古典) 外国語 (英語 I・II・II B、ドイツ語、 フランス語から 1 か国語選択)
			B		数学 (数 I、代数・幾何、基礎解析、 確率・統計*) 外国語 (英語 I・II・II B、ドイツ語、 フランス語から 1 か国語選択)
	後期日程	課さない。			

* 数学のうち確率・統計については、高等学校学習指導要領の確率・統計の内容のうち
「(1)資料の整理」、「(4)確率分布」及び「(5)統計的な推測」を除く。

※ 地理学科、教育学科 (心理学) 及び舞踊教育学科志望者は、A・Bいずれかで受験す
ること。

☆ 人間生活学科前期日程志望者は、A、Bいずれかで受験すること。

(3) 実技検査

○舞踊教育学志望者に次の2種の検査を行う（第2志望とした場合も同じ）。

① ダンス（全員に課する）……与えられた基礎運動及び創作

なお、希望者はこのほかに各種舞踊を加えてもよい。

② スポーツ（次のア～オから1種目を選択）

ア. 陸上競技（短距離走）

イ. 器械運動（マット運動）

ウ. バレーボール

エ. バスケットボール

オ. テニス（硬式又は軟式）

○音楽教育学志望者に次の検査を行う（第2志望とした場合も同じ）。

① ソルフェージュ

ア. 聴音：1～4声部

イ. 新曲視唱

② 声楽

下記の（i）、（ii）、（iii）のいずれか一つを選び、暗譜で演奏すること。

（i）イタリア古典歌曲（原語）1曲を自由選択

（ii）イタリア古典歌曲（原語）1曲〔（i）に同じ〕、及び日本歌曲1曲をそれぞれ自由選択

（iii）イタリア古典歌曲（原語）1曲〔（i）に同じ〕、及びアリア（原語・原調）1曲を自由選択

なお、声楽は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜（複写譜も可）に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）

③ ピアノ

下記の（i）、（ii）、（iii）のいずれか一つを選び、暗譜で演奏すること。繰返しはしないこと。

（i）J.S.バッハ作曲の鍵盤音楽（3分以内）から1曲を自由選択

（ii）J.S.バッハの作品1曲〔（i）に同じ〕、及びベートーヴェンのピアノソナタから一つの楽章を自由選択（ただし、緩徐楽章を除く）

（iii）J.S.バッハの作品1曲〔（i）に同じ〕、及びショパンの練習曲集（作品10、作品25）から2曲を自由選択

8. 試験教科・科目別配点
文教育学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験			合計	備考	
	国語	社会	数学	理科	外国語	計	国語	数学	外国語			計
全科	100	50	100	50	100	400	200	—	200	400	800	舞踊教育学科・舞踊教育学・音楽教育学は、実技検査を課し、総合判定の資料とする。
地理学科												
教育学科 (心理学)	100	50	100	50	100	400	—	200	200	400	800	
舞踊教育学科												

理学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験						合計	備考
	国語	社会	数学	理科	外国語	計	*数学	数学	数学	物理	化学	生物		
数学科							100☆	200	—	(100)	(100)	(100)	400	() から1科目選択 * 数学は共通 ☆ 数学の科目のうち「微分・積分」を除く
物理学科							100☆	100	—	200	—	—	400	
化学科	50	—	50	50	100	250	100☆	—	—	(100)	200	(100)	400	
生物学科							100☆	—	—	(100)	(100)	200	400	
情報科学科	I						100☆	150	50☆	(100)	(100)	(100)	400	
	II						100☆	150	—	(150)	(150)	(150)	400	

生活科学部

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験				合計	備考	
	国語	社会	数学	理科	外国語	計	国語	数学	外国語	計			
生活環境学科	前期日程	100	50	100	50	100	400	—	200	200	400	800	
	後期日程	100	50	200	100	150	600	—	—	—	—	600	
人間生活学科	前期日程	A	100	50	100	50	400	200	—	200	400	800	
	後期日程	B	200	—	200	—	600	—	—	—	—	600	

(注) 三学部とも大学入試センター試験の理科を2科目以上受験した場合は、高得点の科目の成績を用いる。

9. 身体に障害のある者の出願

本学に入学を志望する者のうち、身体に障害があり、受験上特別な措置を希望する者については、事前協議を行うので、出願に先立ち本学入学主幹室に申し出て（電話可）、「受験特別措置協議申請書」を受領のうえ、12月21日(月)までに必要書類（医師の診断書等）を添えて提出すること。

なお、体幹及び両上下肢の機能障害が著しい者のうち、大学入試センター試験で代筆解答を希望する者については、大学入試センター試験出願以前のできるだけ早い時期に申し出ること。

10. 学生募集要項（細目）の配付

入学者選抜に関する細目を記載した「平成5年度お茶の水女子大学学生募集要項（細目）」（出願関係書類添付）の配付は、平成4年11月中旬から行う。

〔配付場所〕 お茶の水女子大学入学主幹室及び各学部事務部

〔郵送による請求方法〕

郵送を希望する者は250円切手を貼った返信用封筒角型3号（21.6×27.7cm）に宛名を明記したものを同封の上、封筒の表に「募集要項請求」と朱書きして、志望学部の事務部へ請求すること。

なお、「募集要項（細目）」は、全学部の内容を網羅しており、各学部共通である。

請 求 先 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 ○○学部事務部

推 薦 入 学

学 部 名	文 教 育 学 部	理 学 部	生 活 科 学 部
募集人員	地理学科 入学定員のうち5名 国文学科 入学定員のうち8名 外国文学科(中国文学・中国語学) 入学定員のうち4名	数学科 入学定員のうち6名 物理学科 入学定員のうち5名 化学科 入学定員のうち5名 生物学科 入学定員のうち7名 情報科学科 入学定員のうち8名	生活環境学科 入学定員のうち12名 人間生活学科 入学定員のうち14名
出願資格及び推薦の要件	平成4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。 ① 調査書の学習成績概評が㊦の者 ② 志願学科に関連する科目〔地理学科の関連科目は地理又は地学、国文学科は国語、外国文学科(中国文学・中国語学)は国語又は外国語〕において特に優れた能力と意欲を有する者	平成4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。 ① 調査書の学習成績概評が㊦の者 ② 志願学科に関連する科目において特に優れた能力と意欲を有する者	平成4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。 ① 調査書の学習成績概評が㊦の者 ② 志願学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者
選考方法	出願書類の審査により第1次選考を行う。その合格者について小論文試験と口述試験を行い総合的に判定する。なお、小論文及び口述試験は、平成4年11月下旬に行い、選考の結果は12月中旬本人に通知する。	出願書類の審査により第1次選考を行う。その合格者について口述試験(生物学科については小論文試験も課す。)を行い総合的に判定する。なお、口述試験(生物学科は小論文も含む。)は、平成4年12月上旬に行い、選考の結果は12月中旬本人に通知する。	出願書類の審査により第1次選考を行う。その合格者について口述試験を行い総合的に判定する。なお、口述試験は、平成4年12月上旬に行い、選考の結果は12月中旬本人に通知する。
出願時期	文教育学部	平成4年11月2日(月)～11月9日(月)	
	理学部 生活科学部	平成4年10月26日(月)～11月2日(月)	
推薦入学募集要項請求方法	8月下旬から配付する。郵送を希望する者は、250円切手を貼った返信用封筒角型3号(21.6×27.7cm)に宛名を明記したものを同封し、封筒の表に「推薦入学募集要項請求」と朱書して、志望学部の事務部へ請求すること。		
請求先	お茶の水女子大学 ○○○学部事務部 〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号		

帰国子女特別選抜

学 部 名	理 学 部
募 集 人 員	数 学 科 : 入学定員のうち若干名
出 願 資 格	<p>平成4年度末までに高等学校を卒業又は卒業見込み[※]の女子で、外国において2年以上継続して外国の正規の学校教育を受けた者。</p> <p>ただし、帰国してから出願までの期間は、外国での正規の学校在学期間をこえないこと。</p> <p>※ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又は修了見込みの者を含む。</p> <p>(注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない。</p>
選 考 方 法	<p>入学者の選抜は、第1次選考、第2次選考に分けて行う。</p> <p>① 第1次選考：出願書類を資料として行う。</p> <p>② 第2次選考：第1次選考合格者に対し、数学、日本語による小論文及び口述試験を行う。</p> <p>なお、第2次選考は、平成4年12月上旬に行い、選考の結果は、12月中旬本人に通知する。</p> <p>(注) 数学の内容は、数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分</p>
出 願 時 期	平成4年10月19日(月)～11月2日(月)
帰国子女特別選抜募集要項請求方法	<p>8月下旬から配付する。郵送を希望する者は、250円切手を貼った返信用封筒角型3号(21.6×27.7cm)に宛名(日本国内の連絡先に限る)を明記したものを同封し、封筒の表に「帰国子女募集要項請求」と朱書きして、下記へ請求すること。</p>
請 求 先	<p>お茶の水女子大学 理学部事務部</p> <p>〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号</p>

○ 推薦入学学生募集要項（細目）

—平成5年度—

I. 推薦入学要項

1. 学部・学科別募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員
文 教 育 学 部	地 理 学 科	入学定員のうち 5名
	国 文 学 科	入学定員のうち 8名
	外 国 文 学 科 (中国文学・中国語学)	入学定員のうち 4名
理 学 部	数 学 科	入学定員のうち 6名
	物 理 学 科	入学定員のうち 5名
	化 学 科	入学定員のうち 5名
	生 物 学 科	入学定員のうち 7名
	情 報 科 学 科	入学定員のうち 8名
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	入学定員のうち 12名
	人 間 生 活 学 科	入学定員のうち 14名

2. 出願資格及び推薦の要件

文 教 育 学 部	<p>平成4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。</p> <p>① 調査書の学習成績概評が㊤の者</p> <p>② 志望学科に関連する科目〔地理学科の関連科目は地理又は地学、国文学科は国語、外国文学科（中国文学・中国語学）は国語又は外国語〕において特に優れた能力と意欲を有する者</p>
理 学 部	<p>平成4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。</p> <p>① 調査書の学習成績概評が㊤の者</p> <p>② 志望学科に関連する科目において特に優れた能力と意欲を有する者</p>
生 活 科 学 部	<p>平成4年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者。</p> <p>① 調査書の学習成績概評が㊤の者</p> <p>② 志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者</p>

3. 出願書類等

1	推薦入学出願 カード	本学所定のもの。 (志願者名票、写真票、受験票)
2	あて名票3枚	合格通知等に使用するのので、本学所定の用紙に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入すること。郵便切手は貼付しないでよい。
3	調査書	高等学校長が作成し、厳封したもの。
4	推薦書	本学所定の用紙に、高等学校長が作成し、厳封したもの。
5	志望理由書	本学所定のもの。
6	検定料	14,000円(郵便為替として受取人指定欄に「お茶の水女子大学」とのみ書くこと。) 注) 1. 第1次選考の不合格者に対しては、11,500円を返還する。 2. 上記の1に該当する者は、平成5年3月31日までに申し出ること。 なお、上記1の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は返還しない。
7	検定料納付書	本学所定の用紙(原符・領収証書)に必要事項を記入すること。
8	受験票返送用 封筒	本学所定の封筒に272円切手(速達料を含む。)を貼付し、志願者の住所、氏名及び郵便番号を記入すること。

4. 出願上の注意

- (1) 国公立大学の推薦入学(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)は1つの大学・学部しか出願できない。
- (2) 出願後の志望学部・学科等の変更は認めない。
- (3) 出願書類不備の場合は受理しない。また、一旦受理した書類は返却しない。

5. 出願方法

- (1) 出願書類の提出は、本学所定の封筒を用い、高等学校長が厳封の上、必ず書留速達で下記あてに郵送すること。

注. 本学では出願書類を受理したときは、直ちに「受験票」を送付するので出願書類発送後7日間たっても未着のときは下記の出願書類送付先に問い合わせること。

(2) 送付先

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

文教育学部志願者	文教育学部事務部
理学部志願者	理学部事務部
生活科学部志願者	生活科学部事務部

6. 出願期間

文教育学部	平成4年11月2日(月)～11月9日(月) (締切日までの消印があれば有効)
理学部	平成4年10月26日(月)～11月2日(月) (締切日までの消印があれば有効)
生活科学部	

7. 選抜方法

選考は、次の第1次・第2次に分けて行う。

① 第1次選考

文教育学部	出願書類による書類選考を行い、平成4年11月24日(火)までに、その合格者には、「第1次選考合格通知書(第2次選考試験集合日時併記)」を、合格とならなかった者には、「第1次選考結果通知書」及び「検定料返還金請求書」を送付する。
理学部	
生活科学部	

② 第2次選考

文教育学部	第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文試験を平成4年11月30日(月)に、口述試験を12月1日(火)に行い、書類選考及び小論文・口述試験の結果を総合して合否を判定する。
理学部	第1次選考合格者に対し、志望学科による口述試験(生物学科については小論文試験も課す。)を平成4年12月1日(火)に行い、書類選考及び口述試験(生物学科は小論文も含む。)の結果を総合して合否を判定する。
生活科学部	第1次選考合格者に対し、志望学科による口述試験を平成4年12月1日(火)に行い、書類選考及び口述試験の結果を総合して合否を判定する。

注. 第1次選考合格者は、指定された時間までに「第1次選考合格通知書」及び「受験票」を持参の上、下記事務部に集合し係員の指示に従うこと。

文教育学部志願者 文教育学部事務部(文教育学部1号館)
 理学部志願者 理学部事務部(理学部2号館)
 生活科学部志願者 生活科学部事務部(生活科学部本館)

8. 合格発表等

(1) 合格者の発表は、平成4年12月10日(木)午後、学内本部棟前掲示板に発表するとともに、合格者には「合格通知書」及び「入学関係書類」を、合格とならなかった者には「結果通知書」を送付し、併せて推薦高等学校長に被推薦者の合否を文書で通知する。(注. 電話等による合否の問い合わせには一切応じない。)

(2) 合格者は、本学及び他の国公立大学（私立産業医科大学を含む。）を受験することはできない。

9. 入学手続

(1) 入学手続は、平成4年12月24日（木）・25日（金）に完了すること。

入学手続を所定の期日までに完了しない場合は、入学を辞退した者として取り扱う。

(2) 合格者が極めて特殊な事情により入学を辞退する場合は、入学手続に替えて、平成5年2月15日（月）までに、その理由を付した本学学長あての「推薦入学辞退願」（様式任意）を推薦をうけた高等学校長の連署を得て、当該学部の事務部に提出すること。

入学辞退が許可されない場合には、本学及び他の国公立大学（私立産業医科大学を含む。）を受験しても入学許可は得られないので注意すること。

(3) 入学手続には、次の関係書類等が必要なので手続当日持参（代理人でも可）すること。

① 提出書類 誓書・保証書

② 入 学 料 230,000円

なお、授業料〔前期分205,800円（年額411,600円）〕（改定予定額）の納入時期については、別途通知する。

10. 合格とならなかった者の取扱い

合格とならなかった者で、一般志願者として国公立大学（私立産業医科大学を含む。）を受験しようとする者は、A日程、前期日程の大学・学部から1つ、B日程、後期日程の大学・学部から1つの合計2つの大学・学部に出願することができる。

出願に当たっては、各大学・学部等により大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等が異なる場合があるので特に注意すること。

本学に出願する場合は、別途「平成5年度お茶の水女子大学学生募集要項（細目）」（11月中旬から配付予定）により、所定の出願書類等を平成5年1月25日（月）から2月2日（火）の期間内に、本学所定の封筒を用い書留速達で当該学部の事務部あてに郵送すること。

なお、推薦入学と同じ学部に出願する者は、必要関係書類等のうち、次に記載する書類等を郵送すればよい。

① 出願カード（「大学入試センター試験成績請求票（印用）又は（印用）」を貼付したもの。）

② 入学志願者マーク・カード

③ 検定料 14,000円

④ 検定料納付書

⑤ 受験票返送用封筒

11. 出願等に関する問い合わせ先

出願等に関して不明な点があるときは、郵便により、返信用封筒（切手貼付のこと。）を同封して、下記あてに問い合わせること。

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部事務部

お茶の水女子大学 理学部事務部

お茶の水女子大学 生活科学部事務部

Ⅱ. 大 学 案 内

1. 大学の概要

本学は広く知識を修得するとともに深く専門の学術をきわめ、知的・道徳的及び応用的能力を展開することを目的とし、新時代における文化の発展をはかる指導的女性を養成することを使命とする。

本学は、明治8年本郷湯島（現文京区湯島3丁目）、現在の御茶ノ水駅近くに東京女子師範学校として開校された。しかし大正12年の関東大震災により全校舎が焼失したため、昭和7年から11年にかけて現在地に移転した。昭和24年国立学校設置法が公布され、東京女子高等師範学校からお茶の水女子大学となり、文学部と理家政学部の2学部が設置された。昭和25年文学部、理家政学部の2学部が文教育学部、理学部、家政学部の3学部となった。また、昭和43年家政学部に家庭経営学科が設置され、昭和52年に文学部が国文学科と外国文学科に改組、昭和57年に教育学部が教育学科と舞踊教育学科に改組、平成2年理学部に情報科学科が設置された。平成4年10月には家政学部が生活科学部に改組される。

学部課程に続き更に専門分野の学識を深化し、研究能力を得させるために、大学院修士課程（2年制）の人文科学、理学及び家政学の3研究科が設けられている。これらの各研究科の中は各学部、学科に相当する各専攻に分かれる。学部・学科を構成する教官組織は修士講座制が採用されており、専門別の研究、教育が緻密に進められている。修士課程には、本学学部出身者以外に他大学からの進学者も多数いるのが現状である。

学部及び修士課程の各専門分野を基礎としてその上に本学を特徴づける独自の大学院として博士課程「人間文化研究科（比較文化学専攻・人間発達学専攻・人間環境学専攻）」（3年制）が設置されている。これは専門の枠を超えた高度の学際的研究を行う創造的能力をもった研究者を養成する機関であり、全学的な総合組織として活動している。

学内共同教育研究施設等としては、女性文化研究センター、生活環境研究センター及び情報処理センターがある。

各学科学年別に補導委員がおり、学生の学習その他学生生活全般に対する相談に応じている。

〔文教育学部〕

哲学、史学、地理学、国文学、外国文学、教育学、舞踊教育学の7学科から成り、外国文学科はさらに、中国文学・中国語学、英文学・英語学、仏文学・仏語学の3専攻に分かれ、また、教育学科は教育学、心理学、舞踊教育学科は舞踊教育学、音楽教育学の各2専攻に分かれている。

文教育学部は、上記の各学科・専攻からも知られるように、人文科学・社会科学・教育学の基礎的知識と研究方法を教授し、各分野のそれぞれに研究が進められている。

文教育学部という学部名称は全国大学学部の中で唯一のものであり、単純に文学部と教育学部が結合したものではなく、機能的内容を持っていることに特色がある。各学科で開講されている講義演習さらにラテン語、ギリシャ語等を含む学部共通の講義を含め、多数の教官により多様多彩の講義が用意されている。学生の積極的学習意欲に対しては、できるだけ応ずる姿勢があるので、専攻分野に深く習熟すると共に、人間形成のために広く教養を身につけることが望まれる。

なお、さらに研究を志す者には、大学院人文科学研究科（修士課程）に進学する道も開かれている。

〔理 学 部〕

国公立の女子大学のなかで、理学部をもつ大学は少なく、貴重な存在である。数学科・物理学科・化学科・生物学科に加えて、平成2年度から情報科学科が設置され、現在5学科からなっている。数学と情報科学を含む自然科学の基礎を教育、研究し、人類の将来の展望をひらくという社会のニーズにこたえる人材を供給しつづけている。

本学部附置の臨海実験所（館山）、ラジオアイソトープ実験室、極低温実験室、組換えDNA実験室のほか、全学附置の情報処理センターも利用し、豊かな教育スタッフによる少人数教育の実績を内外にほこっている。

理学部の各学科の専門分野を更に深く専攻できるように、大学院理学研究科（修士課程）が設けられ、中堅研究者を育てている。大学院へ進学する学部卒業生の割合は3学部のなかでは現在もっとも高く、かつ増えつつけている。

〔生活科学部〕

わが国の人々の生活のより一層の向上と物心両面の充実に資することを目的とし、人間生活の科学を大きく自然科学的分野と社会・人文科学的分野とに分け、前者を生活環境学科、後者を人間生活学科とした生活科学部を組織する。生活環境学科は、高度に科学化された現代の生活資材の生産とその生活への利用や、生態系の一員としての人間の健康と生存に関して自然科学的に対応しうる能力を有した人材を社会に供給する。そのため、生活工学講座、食物科学講座、人間科学講座を設定する。

人間生活学科は長寿社会となったわが国の人々の時間的、空間的に拡大した人生をより幸福に生きるための個人的社会的条件を探究する専門家や、実践家を社会に提供する。そのため、発達臨床学講座、生活社会科学講座、生活文化学講座を設定する。

各学科の紹介等は、お茶の水女子大学大学案内に記載されているので、希望者は下記あてに請求すること。

請求先 : お茶の水女子大学 入学主幹室

請求方法 : 250円切手を貼った返信用封筒角型3号(21.6×27.7cm)を同封のこと

2. 学 費

入 学 料	230,000円
授 業 料	前期分 205,800円 (年額 411,600円)

(注) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することが出来る。

3. 入学科免除

本学に入学する者で入学前1年以内において、主たる学資負担者が死亡し、又は本人若しくは主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより入学料の納付が著しく困難な者については、納付前に免除申請をすることにより入学料の全額又は半額が免除されることがある。

4. 授業料免除

学業成績優秀で経済的理由のため授業料の納付が著しく困難な学生については、年度を2期に分け当該期分ごとに選考の上、授業料の全額又は半額が免除される。ただし、納付済の者は免除の対象としない。

5. 奨 学 金

学業成績・人物ともに優秀、身体強健でかつ経済的事情のため学費の支弁が困難な学生には選考の上、日本育英会から奨学金が貸与される。

現在、貸与額は第1種奨学生、第2種奨学生ともに自宅通学生が32,000円、自宅外通学生が38,000

円となっている。この他に各都道府県、民間団体等で奨学金制度を設けているところがある。これらを希望する者は、出身地の教育委員会や本学学生課に照会すること。

6. 学生教育研究災害傷害保険

大学の教育研究活動中における不慮の災害事故により学生のうけた傷害に対する救済措置として、財団法人内外学生センターが保険契約者となり東京海上火災保険株式会社を幹事会社とする国内損害保険会社との間に一括契約するものである。

保険料と保険期間

保険期間	保険料適用区分		保険期間	保険料適用区分	
	文教育学部	理学部・生活科学部		文教育学部	理学部・生活科学部
1年間	550円	750円	3年間	1,500円	1,900円
2年間	1,000円	1,300円	4年間	1,900円	2,450円

保険料は入学手続期間中に徴収しており、本学学生のほぼ全員が加入している。

7. 学 寮

お茶の水女子大学に入学後、自宅（親許）からの通学が困難なため学寮に入寮を希望する者は、下記により入寮関係書類を配付するので申し出ること。

なお、本学にある学寮は次のとおりであるが、新入生が入寮できるのは大山寮のみであり、自宅（親許）からの通学時間が概ね2時間以上を要し、かつ経済的必要度の高い者から書類により選考する。

学 寮 名	所在地	収容人員	構 造	給 食	1か月寮費	対象学生
小石川寮	文京区大塚	80人	鉄筋コンクリート4階 個室	なし	約8,000円	3-4年生 大学院生
大山寮	板橋区仲町	332人	鉄筋コンクリート4階 4人部屋	1日2食（除く 、土日祝祭日）	約15,000円 （含む、給 食費）	新入生 在学生

● 入寮関係書類配付日時等

入寮関係書類は、入学手続時に配付する。

● そ の 他

入寮関係書類受領後は、入寮申請要領等を熟読のうえ、提出期日に支障のないように準備しておくこと。

なお、学寮入寮募集等について質問がある場合は、下記に照会すること。

お茶の水女子大学学生課厚生係 TEL (03)3943-3151 内線 261・266

8. 下宿・貸間の紹介

大学周辺の下宿代は、1畳当たり約6,000円見当であるが、アパート形式が多く『賄付』はほとんど

どない。大学周辺の貸間等の紹介については、3月末に学生課から資料が提示されるが、物件数等は必ずしも十分とはいえないので親戚知人等の安心できる住居を確保するように心掛けて欲しい。

9. 課外活動

大学の4か年在学中、勉学の余暇を利用して正課以外の学術・社会・芸術・スポーツ・レクリエーションなどに関する活動に参加する経験は、豊かな人間性を涵養するために重要な意味を持っている。

本学には、現在文化系29サークル、体育系21サークルがあり、顧問教官の指導と助言のもとに自主的に活発な活動が行われている。

10. 保健管理センター

本センターは、学部・大学院生（約2,800名）と本学教職員（約400名）の健康管理及びカウンセリングサービスに当たり、職員2名（常勤内科医1名を含む。）と校医3名（婦人科・精神科医等）が配置されている。

主要な事業は、(1)定期及び臨時健康診断、(2)救急及び第一次医療サービス、(3)学生相談（一般・就職・進学・精神衛生）であって、診療件数は月平均1,000件にのぼる。

11. 食堂・売店

学生や教職員の厚生施設の一つとして、お茶の水女子大学食堂及び売店があり、本学が消費生活協同組合に委託し、市価よりも安い価格で需要に応じている。

12. 学外施設

志賀高原体育運動場

所在地 長野県下高井郡山ノ内町字東館7149

館山野外教育施設

所在地 千葉県館山市香字長通11

○ 帰国子女特別選抜募集要項（細目） 一平成5年度一

Ⅰ. 帰国子女特別選抜要項

1. 募集学部・学科及び募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員
理 学 部	数 学 科	入学定員のうち若干名

2. 出願資格

平成4年度末までに高等学校を卒業[※]又は卒業見込み[※]の女子で、外国において2年以上継続して外国の正規の学校教育を受けた者。

ただし、帰国してから出願までの期間は、外国での正規の学校在学期間をこえないこと。

※ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又は修了見込みの者を含む。

(注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育に準拠した教育を施している学校に在学した者については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	帰国子女特別選抜 志 願 者 票 *本学所定の用紙	必ず本人が記入すること。 (写真貼付のこと。)
2	帰国子女特別選抜 出 願 カ ー ド *本学所定の用紙	受験票及び写真票(写真貼付のこと。)
3	あ て 名 票 3 枚	合格通知等に使用するので、本学所定の用紙に日本国内の連絡先の住所・氏名・郵便番号を記入すること。(切手不要)
4	最終出身校卒業(修了) 証明書又は卒業(修了) 見込み証明書 (1通)	高等学校(日本の高等学校に相当する課程をいう。(以下「高等学校」という。))長の作成したもの。
5	成績証明書又は調査書	高等学校長が作成し厳封したもの。 ただし、成績証明書記載事項のうち科目名、成績評価等が符号または略字により表示されている場合には、必ずその説明を付すること。
6	在 籍 証 明 書	在籍した外国の学校のそれぞれの学校長が作成したもの。

7	健康診断書 *本学所定の用紙	出願3か月以内に作成したもの。ただし、平成4年3月から平成5年3月までに日本の高等学校卒業又は卒業見込みの者は提出しなくてよい。
8	検定料	郵便局振り出しの14,000円の「普通郵便為替（平成4年10月1日以降に発行されたもの）」として受取人指定欄に「お茶の水女子大学」とのみ記入すること。出願時に海外に在住する者は、「日本国内の連絡先」の者に依頼して郵便為替にすること。 注1. 第1次選考の不合格者に対しては、11,500円を返還する。 2. 上記1の該当者は平成5年3月31日までに申し出ること。 （返還手続の方法は第1次選考の結果とともに通知する。） なお、上記1の場合以外は、いかなる理由があっても既納の検定料は返還しない。
9	検定料納付書 （原符・領収証書） *本学所定の用紙	「原符・領収証書」に必要事項を記入すること。
10	受験票返送用封筒 *本学所定の封筒	封筒に272円切手（速達料を含む）を貼付し、志願者名票の「日本国内の連絡先」の住所、氏名及び郵便番号を明記すること。

注1：出願書類に記載事項の記入もれその他不備の場合は、出願書類を受理しない。また、一旦受理した出願書類の出願事項の変更、返却は認めない。

注2：出願書類のうち日本語以外の国語で書かれた証明書等については、その日本語訳を添付すること。ただし、外国の学校の成績証明については、添付可能なものとする。

(2) 出願方法

- ① 出願書類を一括して、本学所定の封筒を用い、書留速達で出願期間内に必ず着くように郵送すること。
- ② 送付先 〒112 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学 理学部 事務部

(3) 受験票の送付

- ① 出願書類を受け付けた者に対しては「受験票」を送付する。
- ② 「受験票」は検定料の「領収証書」とともに11月上旬に送付する。

注：大学からの連絡、受験票の送付、第1次選考、第2次選考の結果通知等は、すべて志願者名票の「日本国内の連絡先」欄に記載の住所・氏名あてに行う。

4. 出願期間

平成4年10月19日（月）から11月2日（月）まで（期間内に必着するよう郵送すること。）

5. 選抜方法

入学者の選抜は、次の第1次選考、第2次選考に分けて行う。

第1次選考：出願書類を資料として行う。

なお、第1次選考結果は、平成4年11月24日（火）付けで、合格者には「第1次選考合格通知書」を、合格とならなかった者には「第1次選考結果通知書」及び「検定料返還金請求書」を送付する。

第2次選考：第1次選考合格者に対し、学力試験（数学、日本語による小論文）及び口述試験を次のとおり行う。

学力試験・口述試験実施日時・試験場

月 日（曜）	教 科 等	時 間	試 験 場
12月1日（火）	数 学 〔数学Ⅰ、代数・幾何、 基礎解析、微分・積分〕	9時30分～10時40分	お茶の水女子大学 理学部2号館
	小 論 文	11時00分～12時00分	
	口 述	13時00分～	

注：第1次選考合格者は、9時までに「第1次選考合格通知書」及び「受験票」を持参の上、理学部事務部（理学部2号館）に集合し係員の指示に従うこと。

6. 合格発表等

合格者の発表は、平成4年12月10日（木）午後、学内本部棟前掲示板に発表するとともに、合格者には届け出のあった「合格通知先」あてに「合格通知書」及び「入学関係書類」を送付する。

合格とならなかった者には「結果通知書」を送付する。

〔注意〕 帰国子女のための入学者選抜については、本学では「特別選抜」として実施するため、この選抜で合格した者は、指定の期日に入学手続きを行うこと。

なお、合格者で特別な事情により本学への入学を辞退しようとする者は、平成4年12月21日（月）までに、その理由を付した本学学長あての「帰国子女特別選抜入学辞退届」（様式任意）を理学部事務部に提出すること。

7. 入学手続等

(1) 合格者は平成4年12月24日（木）又は12月25日（金）のいずれかの日に入学手続きを行うこと。受付時間は両日とも午前10時から午後4時までとする。

(2) 入学手続には、次の書類及び経費を直接持参（代理人でも可）すること。

①提出書類 「誓書」、「保証書」

②入 学 料 230,000円

なお、授業料〔前期分205,800円（年額411,600円）〕（改定予定額）の納入時期については、別途通知する。

〔注意〕 本学に入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学（私立産業医科大学を含む。）に入学手続をすることはできない。

8. 合格とならなかった者の一般選抜への出願

帰国子女特別選抜に合格とならなかった者で、本学の一般選抜の入学試験を受験しようとする者（平成5年度大学入試センター試験において、本学各学部が指定した各教科・科目を受験した者に限る。）は、「お茶の水女子大学学生募集要項（細目）」（11月中旬から交付予定）により、再度出願することができる。なお、理学部に出願する者は、必要関係書類等のうち、次に記載する書類等を郵送すればよい。

① 出願カード（「大学入試センター試験成績請求票（返信用）」を貼付したもの。）

② 入学志願者マーク・カード

③ 検定料 14,000円

④ 検定料納付書

⑤ 受験票返送用封筒

9. 出願等に関する問い合わせ先

出願等に関して不明な点があるときは、郵便により、返信用封筒（切手貼付のこと）を同封して、お茶の水女子大学理学部事務部に問い合わせること。

○ 平成5年度お茶の水女子大学大学院人文科学研究科（修士課程）

学 生 募 集 要 項

1. 専攻及び募集人員

専攻名	募集人員	専攻名	募集人員				
哲学専攻	8	教育学専攻	教育学	11			
			心理学				
		史学専攻	7		舞踊教育学専攻	舞踊教育学	10
						遊戯学	
西洋史学	動作学						
地理学専攻	6	音楽学					
日本文学専攻	6	演奏学					
中国文学専攻	3	※日本語文化専攻	※12				
英文学専攻	7	合計	70				

※大学卒業後2年以上の日本語教育の経験を有し、現在、日本語教育に携わる在職社会人を含む。（8ページ参照）

2. 出願資格 下記該当の女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成5年3月卒業見込みの者
- (2) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3. 出願手続

- (1) 入学願書 用紙は本学で交付
- (2) 卒業（又は見込み）証明書
- (3) 推薦書 指導教官又は主任教官により作成されたもの（形式随意）
- (4) 調査書 用紙は本学で交付
- (5) 健康診断書 用紙は本学で交付
- (6) 写真 正面上半身の名刺型で、出願前3か月以内に撮影したもの
願書の指定欄に貼付

- (7) 返信用封筒 郵送の場合に限り、宛先を表記し、62円切手を貼付
- (8) 受験承諾書 他大学の大学院に在学中の者は学長又は研究科長の受験承諾書
在職中の者は所属長の受験承諾書

- (9) 検定料 24,000円

前記書類等を一括し、所定の期日までに本学に提出のこと。ただし、郵送するときは書留速達郵便とし、検定料は郵便為替で、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記し、封筒に「大学院人文科学研究科入学願書」と朱書すること。

なお、日本語文化専攻を受験する者は次の書類を含めて所定の期日までに本学に提出のこと。

- (10) 研究報告・計画書 大学における卒業論文・卒業研究の内容及び将来の研究計画を3,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付）
- (11) 職務内容報告書 在職社会人のみ提出。日本語教育機関における職務の内容を1,000字以内にまとめたもの（用紙は本学で交付）

4. 出願期間・願書受付場所

- (1) 出願期間 平成5年1月8日(金)から1月14日(木)までの間。
ただし、9日及び10日を除く。
午前 9時から11時30分 午後 1時から3時
郵送の場合は締切日までの消印有効
- (2) 受付場所 お茶の水女子大学文教育学部事務部（文教育学部1号館1階）
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号
（地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車）

5. 選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験（実技を含む）、調査書、健康診断書等（日本語文化専攻にあっては、研究報告・計画書、職務内容報告書を含む。）の結果を総合して行う。

- (1) 選考期日 平成5年2月2日(火)～2月3日(水)
※ 日本語文化専攻のみ 平成5年2月2日(火)～2月4日(木)

(2) 筆記試験・口述試験時間割

専攻名等		2月2日(火) 筆記試験		2月3日(水)	備考
		外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00	口述試験 10:00~	
哲学専攻	哲学	英・独・仏・中国語の中から1か国語を選択する。ただし、中国文学専攻志望者が中国語を、英文学専攻志望者が英語を選択することはできない。(注1)	哲学	(注3)	学士論文提出可能な者は願書と同時に提出すること。(注4) なお、地理学専攻にあっては、研究計画書(様式自由、800字以内)を必ず提出すること。
	倫理学		倫理学		
	美学		美学		
	社会学		社会学		
史学専攻	日本史学		日本史学		
	東洋史学		東洋史学		
	西洋史学		西洋史学		
地理学専攻			地理学		
日本文学専攻			国文学及び国語学		
中国文学専攻			中国語学及び中国文学		
英文学専攻		英語・英語学及び英米文学			
教育学専攻	教育学	教育学			
	心理学	心理学			
舞踊教育学専攻	舞踊教育学	舞踊学及び論文 論文は志望する専攻出題の課題を選択する。 (注2)	(注3) 舞踊実技を課することがある。		
	遊戯学				
	動作学				
	音楽学		(注3) 演奏(任意の楽器又は声、曲目は自由)を課することがある。		
	演奏学			(注3) 10分程度の演奏実技(曲目は自由)を課する。	
	西洋音楽史又は 日本音楽史				

専攻名等	2月2日(火) 筆記試験		2月3日(水) 2月4日(木) 口述試験	備考
	外国語 10:00~11:30	専門科目 13:00~15:00	10:00~	
日本語文化専攻	英・独・仏・中国語の中から1か国語を選択する。(注1)	日本文化学 日本語教育法	主に研究報告・計画書、職務内容報告書(在職社会人のみ)にもとづいて行う。	

注1. 外国語の選択科目については、出願の際届け出るものとする。

注2. 舞踊教育学専攻(舞踊教育学、遊戯学、動作学)志望者に課す専門科目の論文は、志望する専攻に応じ課題のうちから選択し、論文(2,000字程度)を作成する。

注3. 口述試験は、主として志望する専攻又は学士論文について行う。

注4. 学士論文を提出できない事情のある者は、その旨申し出ること。

(3) 試験場所 お茶の水女子大学(東京都文京区大塚2丁目1番1号)

6. 入学料及び授業料 入学料 230,000円 授業料年額 411,600円

7. 合格者発表 平成5年2月12日(金) 12時頃、学内に氏名を掲示する。

合格通知書は、文教育学部事務部で受験票を確認のうえ交付する。都合により当日来学できない合格者には、本人に郵送する。

8. 注意事項

(1) 出願書類等の郵送を希望する者は、175円切手を貼った返信用封筒角型3号に宛先を表記したものを同封し、封筒の表に「人文科学研究科出願書類請求」と朱書きして本学「文教育学部事務部」へ請求すること。

(2) 出願手続後は、書類の変更及び検定料の払い戻しは行わない。

(3) 合格、不合格に関する問い合わせには一切応じない。

(4) 「外国人留学生」に関しては、出願書類等が異なるため、本学「学生部学務課留学生係」が取り扱うので、同係に問い合わせること。

お茶の水女子大学 ☎ 03-3943-3151 (代表)

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程概要

1. 目的及び使命

本学大学院は本学の目的、使命に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 2年

3. 専攻及び入学定員

人文科学研究科に次の専攻を置き、入学定員は次のとおりとする。

専攻名	入学定員	総定員	専攻名	入学定員	総定員
哲学専攻	8	16	英文学専攻	7	14
史学専攻	7	14	教育学専攻	11	22
地理学専攻	6	12	舞踊教育学専攻	10	20
日本文学専攻	6	12	日本語文化専攻	12	24
中国文学専攻	3	6	計	70	140

4. 授業科目履修方法及び課程の修了

(1) 学生は2年以上在学し、それぞれの専攻の授業科目について30単位以上履修しなければならない。

ただし、研究指導を担当する教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、他の専攻、他研究科又は学部の授業科目を指定して履修させ、これを当該専攻の単位とすることができる。

(2) 課程の修了には、2年以上在学し、所要の単位を修得し、かつ学位論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

5. 学位授与

本研究科において、課程を修了した者に対しては、修士の学位を授与する。

6. 主要授業科目・担当教官

専攻	授業科目	担当教官
哲学専攻	哲学特論・演習	教授 吉田夏彦 教授 土屋賢二 助教 羽入佐和子
	倫理学特論・演習	教授 尾田幸雄 助教 高島元洋
	美学特論・演習	教授 辻佐保子 助教 秋山光文
	社会学特論・演習	教授 宮島喬
史学専攻	日本史学特論・演習	教授 大口勇次郎 助教 安田次郎 助教 小風秀雅
	東洋史学特論・演習	(未定) 教授 窪添慶文 助教 三浦徹
	西洋史学特論・演習	教授 山本秀忠 教授 塚本躬
地理学専攻	人文地理学特論・演習	(未定)
	自然地理学特論・演習	助教 栗原尚子 教授 田宮兵衛 助教 杉谷隆夫
	地誌学特論・演習	助教 内藤博 教授 熊谷圭夫
日本文学専攻	上古中古文学特論・演習	教授 平野由紀子 助教 岩崎千鶴
	中世近世文学特論・演習	教授 三木千紀 教授 浅井人 助教 大塚常樹
	近代文学特論・演習	教授 大塚常樹
	国語学特論・演習	助教 佐藤保樹
中国文学専攻	中国文学特論・演習	教授 佐藤正和 助教 宮尾樹子
	中国語学特論・演習	教授 藤山原茂 助教 藤相
英文学専攻	英文学特論・演習	教授 野島秀勝 助教 内田正之
	米文学特論・演習	教授 酒本雅静 教授 海老根江久子
	英語学特論・演習	教授 宮川幸典 助教 今西

専攻	授業科目	担当教官
教育学 専攻	(教育学) 教育学特論・演習 教育史特論・演習 教育社会学特論・演習 教育行政学特論・演習 教育方法学特論・演習 教育経営学特論・演習 社会教育学特論・演習 博物館学特論・演習 文化人類学特論・演習	教授 上野 浩道 (未定) 助教授 耳塚 寛明 教授 森 隆夫 教授 宮原 修 (未定) 教授 小川 剛 助教授 鷹野 光行 教授 田中 真砂子
	(心理学) 教育心理学特論 I, II 社会心理学特論 I, II 発達心理学特論 I, II 臨床心理学特論 I, II 認知心理学特論 I, II	助教授 内藤 俊史 (未定) 教授 内田 伸子 教授 春日 喬彰 助教授 石口 彰
舞踊教育学 専攻	(舞踊) 舞踊教育学特論・演習 舞踊方法論・特論 遊戯学特論・演習 舞踊美学特論 動作学特論・演習	教授 片岡 康子 助教授 本田 郁子 教授 加賀 秀夫 教授 石黒 節子 教授 森下 はるみ
	(音楽) 音楽学特論・演習 演奏学特論・演習	教授 徳丸 吉彦 (未定) 教授 遠藤 秀一郎 助教授 林 廣子
日本語文化 専攻	日本語文化学特論・演習 外国文化論 日本語教育方法論 日本語指導法演習 日本語音声表現演習 日本文化史学特論 対照言語学特論・演習 言語心理学特論	教授 三木 紀人生 助教授 市古 夏夫 教授 湊 和信 教授 水谷 信子 助教授 水長 友和 助教授 平田 悦朗 教授 大口 勇次郎 助教授 大今 典子 助教授 中 弓子 教授 内田 伸子
関連科目	独文学特論・演習 仏文学特論・演習	教授 杉本 正哉 教授 石丸 昭二 教授 石川 宏子 助教授 石中 弓子

日本語文化専攻の概要

日本語文化専攻（独立専攻）は、日本語とその背景にある日本文化の考究を通じて、日本語教育に関する高度の研究者・実践的教員を養成するとともに、在職日本語教員の再教育をも行うことを目的とする。

日本語文化専攻社会人学生について

1. 日本語教育の経歴等について

本専攻が対象とする在職社会人は、公的、私的とを問わず、各種の日本語教育機関で常勤又は非常勤で日本語教育に従事している者をいう。

「2年以上の日本語教育の経験」とは、上記の各種日本語教育機関で常勤又は非常勤の従事者としての2年以上であり、非常勤の特殊な勤務形態（たとえば、短期集中授業の講師等）として、通算して2年以上に達する場合も認められる。

在職社会人受験者は、職務内容報告書を提出すると同時に、「入学願書」の「履歴事項」職歴欄を特に詳しく記入すること。記入欄に書ききれない場合には別紙に記入してもよい。

また、非常勤で日本語教育に従事している者については、「受験承諾書」の代わりに「在職証明書」を提出すること。

2. 履修形態

社会人学生の履修形態は、第1年次は、職場を離れ通常開講される授業及び研究指導を受け、第2年次については、職場に復帰し、定期的又は集中的に通学し、平日の夜間等を開講する授業及び研究指導を受けることができる。

夜間の開講については、火曜日と木曜日に、それぞれ17:20～18:50 19:10～20:40の2時間開講を予定している。

諸 報

○平成4年9月卒業式、学位記授与式について

本年9月卒業式、学位記授与式が9月30日（水）大学会議室（家政学部本館2階）で挙行された。

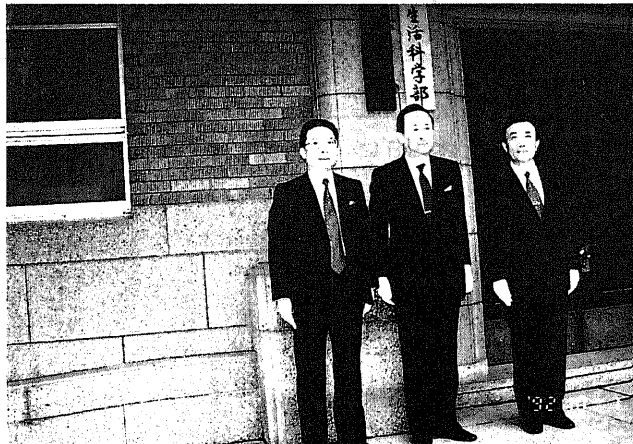
- ・卒業者 文教育学部 4名
- ・修了者 人文科学研究科 3名
- 家政学研究科 1名
- 人間文化研究科 1名



○生活科学部の発足について

10月1日に家政学部を改組し生活科学部を発足。

社会や環境等の変化に伴い家政学も大きな変革期を迎えたことにより、これらへの対応や生活の諸問題を現代科学を総合して教育・研究することにより有為なる人材を輩出し、現代及び未来の生活向上と充実に資することを目的とした改組である。



○生活科学部教員組織表

4.10.1.現在

生活環境学科			人間生活学科		
生活工学講座	教授	中島利誠	癸達臨床学講座	教授	本田和子
	助教授	小川昭二郎		助教授	水野悌一
	助	長谷部ヤエ子		助	黒田淑子
	助	駒城素正		助	飯長喜一郎
	助	仲西新一		助	無藤隆
	助	田辺新		助	山本政人
食物科学講座	助	山野春子	助	田代和美子	
	助	有末伸子	助	黒田裕子	
	教務補佐員	桑嶋照子	教務補佐員	内藤知美子	
	助	田中敬子	助	大首藤美香子	
	助	西村美和子	助	荻原高子	
	助	高橋和子	助	吉川はる奈子	
人間科学講座	助	事務補佐員	助	早川典子	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
	助	事務補佐員	助	事務補佐員	
生活社会学講座	教授	荒川信彦	生活社会学講座	教授	湯沢雍彦
	助	小林彰子		助	袖井孝也
	助	島田清一		助	犬塚カツコ
	助	本間久保紀久枝		助	牧野美智子
	助	久保江敬子		助	御船英子 (婦人問題)
	助	畑大塚容常		助	篠田孝夫
生活文化化学講座	助	村沢なお子	助	奥田都子	
	助	谷澤容子	助	大塚洋子	
	助	綾部園子	助	中南海みどり	
	助	荒木あゆみ	助	細江容子	
	助	内山良重	助	横村愛子	
	助	香西みどり	助	柳瀬サエ子	
生活文化化学講座	助	霜田くみ子	助	関口伸子	
	助	関ノリタ・サンセダ	助	ノリタ・サンセダ	
	助	浜田陽子	助	若宮弘子	
	助	橋場浩子	助	富田守治	
	助	近藤恵子	助	松浦秀美	
	助	柴坂寿子	助	鈴木美子	
生活文化化学講座	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
生活文化化学講座	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	
	助	近藤恵子	助	近藤恵子	

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
生活科学部・講師	柴坂寿子	オランダ王国 オーストリア共和国 中央アフリカ共和国	第11回国際人間行動学会議出席研究打合せ、資料収集	4. 7. 24~4. 8.25	海外研修
生活科学部・教授	黒田淑子	ハンガリー人民共和国 オーストリア共和国	音楽集会での講演及び劇状況の人間関係構造に関する調査研究	4. 8.22~4. 8.30	海外研修
文教育学部 ・教務職員	村松朋子	アメリカ合衆国	ダグスの研究会議(CORD)に出席及びコンテンツ・ダグスに関する資料収集のため	4. 8. 3~4. 9. 2	海外研修
理学部・助教授	永野 肇	フランス共和国	第18回天然物有機化学国際シンポジウムに出席及び発表	4. 8.28~4. 9. 6	海外研修
理学部・助教授	藤枝修子	ポーランド人民共和国 ドイツ連邦共和国 オーストリア	ケモメトリックス(計量化学)による実験値解析法の研究	4. 7. 9~4. 9. 8	外国出張
理学部・助教授	竹尾 富貴子	イタリア共和国	関数解析と近似論に関するシンポジウムに出席・講演及び研究連絡	4. 7. 9~4. 9. 8	海外研修
生活科学部・教授	湯沢 雅彦	中華人民共和国	中国社会科学院との協議及び老人問題の調査	4. 9.17~4. 9.23	海外研修
女性文化研究 センター・教授	原 ひろ子	タイ王国	ジェダー分析手法に関する国際比較と、その開発プロジェクトの形成・実施・評価に対する応用の可能性に関する研究・現地調査の為	4. 9.19~4. 9.24	海外研修
生活科学部 ・教授	板倉 壽郎	アメリカ合衆国	カーネギーメロン大学及びマサチューセッツ工科大学において感性的情報伝達の構造について協同研究のため	4. 9.10~4. 9.25	海外研修
附属高等学校 ・教頭	早崎 捷治	オーストリア共和国	東京都高校留学生事業(短期派遣)生徒の引率	4. 9.14~4. 9.27	外国出張

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
理学部・助教授	長嶋雲兵	連合王国	分子及び分子錯体の反応と物性に関する研究動向調査	4. 7.27～4. 9.28	外国出張
文教育学部・助教授	小風秀雅	中華人民共和国	近代日中関係史資料の調査及び収集	4. 9. 6～4. 9.28	海外研修
文教育学部・教授	窪添慶文	中華人民共和国	中国魏晋南北朝史学会出席及び学術交流	4. 9.16～4.10. 2	海外研修
文教育学部・教授	辻佐保子	フランス共和国 アメリカ合衆国	中世美術に関する資料収集と展覧会見学	4. 9. 5～4.10. 6	海外研修
文教育学部・助教授	三浦徹	イスラエル国 トルコ共和国 シリアアラブ共和国 エジプト	「イスラム世界における都市空間構成に関する比較研究」にもとづく学術研究	4. 8.20～4.10. 8	外国出張
文教育学部・助教授	鷹野光行	イタリア共和国	ローマ帝政期の別荘遺跡発掘調査	4. 7.20～4.10.10	外国出張
生活科学部・教授	袖井孝子	アメリカ合衆国	国際高齢者連盟によるワークショップ会議出席及び講演	4. 9.17～4.10.12	海外研修

○研修

名称	実施日時	対象者	終了者	主催
平成4年度初任職員研修	平成4年9月8日～9月11日	(1) 昭和63年度4月1日以降採用された30歳未満の者 (2) その他所属課長又は事務長の推薦に基づき事務局長が特に必要と認めた者	会計課管財係 田中麻美 会計課用度係 田村耕造 会計課出納係 松本陽子 会計課用度係 加藤裕二 施設課設備係 桜井明 学生課学生係 齋藤太一 学生課厚生係 菅原章 学生課厚生係 菊池慶文	お茶の水女子大学

名 称	実 施 日 時	対 象 者	終 了 者	主 催
平成4年度初任職員研修	平成4年9月8日 ～9月11日	(1) 昭和63年度4月1日以降採用された30歳未満の者 (2) その他所属課長又は事務長の推薦に基づき事務局長が特に必要と認めた者	文教育学部総務係 小西由子 文教育学部総務係 永井 悟 生活科学部総務係 内山典子 附属図書館総務係 林 伸 早 附属学校部総務係 遠藤信子 附属学校部総務係 加藤 誠 一	お茶の水女子大学
平成4年度 関東・甲信越地区 国立学校等係長研修	平成4年9月8日 ～9月11日	受講者は、原則として次の各号に該当するものとする。 ①係長又は、係長相当の職にある者。 ②年令50才以下の者。 ③勤務成績が優秀の者。	会計課出納係長 藤城健三 学生課学生係長 平松周二	文部省、一橋大学及び電機通信大学
平成4年度留学生担当者研修	平成4年9月16日 ～9月18日	(1)または(2)に該当する職員。 (1) 国立私立大学、高等専門学校及び専修学校の留学生担当の初任職員 (2) 留学生関係団体職員	学務課留学生係 中村一吉	文部省、日本国際教育協会及び外国人留学生問題研究会
平成4年度国立学校等課長(事務長)補佐研修	平成4年10月13日 ～10月16日	国立学校等の課長補佐及び事務長補佐で、原則として年齢50歳以下の者のうち、各機関の長の推薦を受けて、文部省大臣官房人事課長が決定する者。	会計課課長補佐 西村光範	文部省及び東京大学

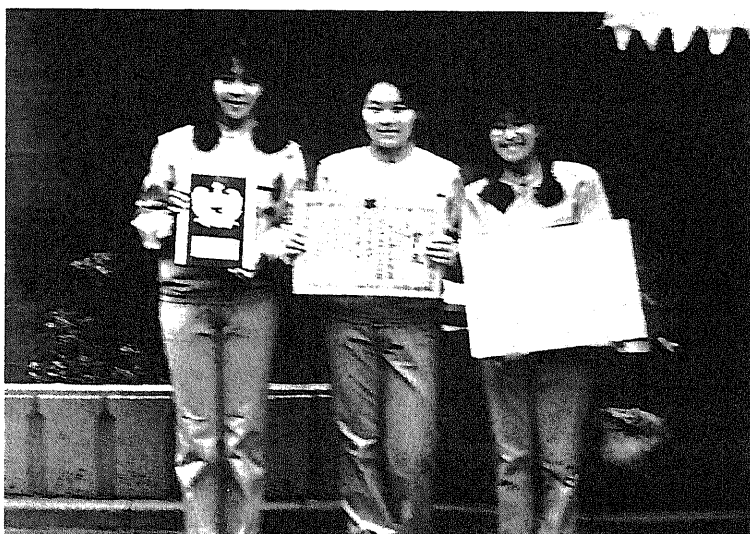
○レクリエーション行事

行 事 名	実 施 日 時	参加者数	内 容 ・ 入 賞 者	実施場所
平成4年度職員 映画鑑賞 (第1回)	平成4年 7月15日～8月31日	125人	題名 「おろしや国酔夢譚」・「遠き落日」 「フック」・「遙かなる大地へ」 「紅の豚」・「エイリアン3」	都内近郊 映画館
平成4年度職員 綱引き大会	平成4年9月21日	81人	優 勝 施設課チーム 準優勝 会計課チーム 第3位 学生部チーム	附属高等学校 体育館

行 事 名	実 施 日 時	参加者数	内 容 ・ 入 賞 者	実施場所
平成4年度職員 ミュージカル観劇	平成4年度 9月10日～9月18日	20人	題名 李 香 蘭	青山劇場

○自衛消防隊訓練審査会について

文京区の小石川消防署で9月18日に行われた自衛消防隊の審査会において、お茶の水女子大学「女子消防隊」が第2位の栄誉に輝き、小石川消防署長から優秀賞が授与されました。



○健康診断

事項	実施日時	対象者	受診者数	実施場所
平成4年度職員特別 定期健康診断（第一次）	平成4年 9月18日	自動車運転手	3人	保健管理センター
職員定期健康診断 （第1回）	平成4年 10月15日～ 10月16日	全職員。ただし、人間ドック受診者及び遠隔地勤務者を除く。	174人	保健管理センター

日 誌

◇ 諸 会 議

- 9月3日(木) 一般・教務合同委員会
 4日(金) 事務連絡会
 7日(月) 組換えDNA実験安全委員会
 9日(水) 情報処理センター運営委員会、ラジオ
 アイソトープ実験室運営委員会、
 生活科学部設置準備委員会
 11日(金) 附属学校委員会
 14日(月) 部局長会議
 16日(水) 各学部教授会
 留学生担当職員研修会
 (18日まで、於中央青年の家)
 17日(木) 関プロ国立学校等広報・文書研究協議
 会(18日まで、於国立婦人教育会館)
 18日(金) 関東C地区事務電算化協議会(於東京
 商船大学)
 21日(月) 将来構想検討委員会
 25日(金) 厚生補導部課長会議(於東京農工大学)
 29日(火) 部局長会議
 防災会議
 30日(水) 評 議 会
 10月5日(月) 外国人留学生委員会
 6日(火) 事務連絡会議
 7日(水) 入 試 委 員 会
 12日(月) 一般教務合同委員会
 13日(火) 関東甲信越地区国立大学事務局長会議
 (14日まで、於信州大学)
 全国学生部長協議会(14日まで、於
 千葉大学)
 13日(火) 文部省共済組合地区別事務担当者打合
 せ会(15日まで、於富山大学)
 14日(水) 関東甲信越地区施設部課長会議(15日
 まで、於横浜国立大学) 食物学・被
 服学・家庭経営学奨学金審査委員会
 15日(木) 関東甲信越地区庶務部課長会議(16日
 まで、於筑波大学)
 16日(金) 関東甲信越地区国立大学長会議(於如
 水会館)

◇ 行 事 等

- 8月24日(月) 大学院理学研究科願書
 受付開始(31日まで)
 9月7日(月) 理学研究科入試(8日まで)
 8日(火) 初任職員研修(11日まで、於志賀高原)
 12日(土) 文部省・親と子のスポーツスクエア
 (附属小学校グラウンド)
 16日(水) 日本語・日本文化研修生修了式
 教育実習説明会(東京都)
 17日(木) 理学研究科・家政学研究科合格発表
 18日(金) 自衛消防隊訓練審査会(女子)(於小
 石川消防署) 特別定期健康診断
 21日(月) 綱引き大会
 文部省会計事務特別研修(9日まで、
 於国立オリンピック記念青少年総合セ
 ンター)
 26日(土) 公開講座
 27日(日) 留学生見学旅行(29日まで)
 28日(月) ロシア連邦サハリン州ユジノサハリン
 スク教育・文化・経済交流団訪問(附
 属小・中・幼)
 30日(水) 平成4年9月卒業式・学位記授与式
 10月1日(木) 生活科学部設置
 3日(土) 公開講座
 7日(水) 第1回日立ユーザー会
 (於附属図書館)
 12日(月) 長期給付実務研修会
 (13日まで、番町グリーンパレス)
 13日(火) 国立学校等課長(事務長)補佐研修
 (16日まで、於国立オリンピック記念
 青少年総合センター)
 14日(水) 防災訓練
 15日(木) 職員一般定期健康診断
 (16日まで)
 17日(土) 公開講座